Ⅴ. 教育研究体制

1. 教員組織

(1)専任教員

○薬学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
創薬化学			
(薬化学)	教　授 薬博	小田　和明	・光化学反応による新規複素環系の構築法に関する研究
	准教授 薬博	西園　直純	・がん剤と抗ｳｲﾙｽ剤の創製を目指した新規核酸誘導体とｸﾏﾘﾝ誘導体の合成研究
	助　教 薬博	山口　由基	・CYPを阻害する誘導体の合成とCYP阻害ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
(医薬化学)	教　授 薬博	西　剛秀	・新規有用生理活性物質の合成研究
	准教授 薬博	山田　康司	・生理活性ｲﾝﾄﾞｰﾙｱﾙｶﾛｲﾄﾞの合成研究
	講　師 薬博	阿部　匠	・有用合成中間体の開発と合成化学への応用に関する研究
(生薬学)	准教授 薬博	高上馬希重	・薬用植物の植物生理学的研究
	講　師 薬博	金　尚永	・ｾﾝﾘｮｳ科Chloranthus属植物の成分研究
	助　教	野口由香里	・荒れた森の復活研究「北海道医療大学・北方系生態観察園の里山化」
分子生命科学			
(生化学)	教　授 薬博	青木　隆	・UGT1A遺伝子ﾌﾟﾛﾓｰﾀｰ領域の機能解析と遺伝子多型に関する研究
	准教授 薬博	浜上　尚也	・神経活性物質の変動とその意義に関する研究
	講　師 薬博	土田　史郎	・均一蛍光濃縮法 (HAFCOM) を用いたﾌﾟﾛﾃｱｰｾﾞの基質特異性解析
(免疫微生物学)	教　授 獣医博	岡崎　克則	・ｳｲﾙｽ感染症の診断および治療法の開発研究
	准教授 医博	大澤　宜明	・ｳｲﾙｽの感染成立及び病原性の機構に関する研究
	助　手	森　宏	・ﾃﾞﾙﾀﾚﾄﾛｳｲﾙｽによる白血病発症機構の解明
生命物理科学			
(薬品分析化学)	教　授 薬博	村井　毅	・胆汁酸生合成機構及び胆汁酸ﾄﾗﾝｽﾎﾟｰﾀｰの機能解析に関する研究
	講　師 理博	佐藤　浩輔	・合理的設計に基づく新規機能性核酸分子の創製研究
	助　教 環境科学博	佐々木隆浩	・精密位置制御分子修飾に基づく機能性ﾅﾉ材料の開発
(薬品物理化学)	教　授 薬博	吉村　昭毅	・ﾀﾝﾊﾟｸ質および核酸の超高感度ｼﾞｰﾅﾙ検出試薬の開発
	助　教 理修	岡田　知晃	・X線結晶構造解析法を用いた生体高分子の構造研究
(放射薬品化学)	准教授 薬博	北浦　廣剛	・放射性ﾌﾟﾛｰﾌﾞを用いたがんの診断・治療薬剤の開発
	助　教 薬博	大島　伸宏	・創薬化学を基盤とした核医学診断・治療薬剤の開発研究
衛生薬学			
(衛生化学)	教　授 薬博	和田　啓爾	・食品の薬物代謝酵素に及ぼす影響と相互作用の予防
	准教授 薬博	小林　大祐	・薬物および食品の作用や毒性の個体差要因の解析
	助　教 生命薬科学修	石川　美香	・薬物および食品成分の代謝研究
(環境衛生学)	教　授 医博	小島　弘幸	・環境化学物質による核内受容体を介した生体影響評価に関する研究
	講　師 水産科学博	寺崎　将	・食品及び薬用植物由来機能性脂質によるがん化学予防に関する研究
薬理学			
(薬理学)	教　授 薬博	柳川　芳毅	・生理活性物質による免疫細胞の機能修飾
	講　師 薬博	水野　夏実	・抗原提示細胞による免疫機構調節に関する研究
	助　教 薬博	遠藤　朋子	・免疫細胞における新規細胞内情報伝達機構の解明
(臨床薬理毒理学)	教　授 医博	泉　剛	・情動の行動薬理学的・神経化学的研究
	准教授 獣医博	大橋　敦子	・病態ﾓﾃﾞﾙ動物における神経伝達調節に関する研究
	助　教 医博	鹿内　浩樹	・精神疾患ﾓﾃﾞﾙ動物の示す行動変容の神経基盤解析
(病態生理学)	教　授 医博	飯塚　健治	・擬似的圧力負荷環境下における細胞応答に関する研究
	准教授 薬博	町田　拓自	・血管及び消化管傷害による機能変化とその制御に関する研究
	助　教 薬博	平出　幸子	・脳機能発達と情動神経回路形成ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
薬剤学			
(薬剤学)	教　授 薬博	齊藤　浩司	・医薬品の体内動態の解明とその制御に関する研究
	准教授 薬博	小田　雅子	・多剤排出ﾀﾝﾊﾟｸによる薬物輸送および薬物相互作用に関する研究
	助　教 薬博	市村　祐一	・薬物の胆汁中排泄に関する研究
(製剤学)	教　授 医博	柴山　良彦	・がん化学療法とﾏｲｸﾛRNAに関する臨床薬剤学研究
	准教授 薬博	中川　勉	・糖代謝・脂質合成制御の分子メカニズムに関する研究
	講　師 薬博	久保　儀忠	・固体分散系を応用したﾊﾞｲｵｱﾍﾞｲﾗﾋﾞﾘﾃｨ改善の製剤学的研究
(臨床薬剤学)	教　授 薬博	小林　道也	・簡易懸濁法による薬剤の溶解性と溶出挙動の変化
	准教授 薬博	伊藤　邦彦	・高分子ｹﾞﾙを利用した製剤設計
	助　教 薬博	下山　哲哉	・温度およびｲｵﾝ応答性高分子混合系を用いた経口徐放性液剤の設計
実務薬学			
(実務薬学教育研究)	教　授 薬博	平野　剛	・妊娠の進行に伴う胎盤の栄養輸送に関する研究
	准教授 薬博	吉田　栄一	・調剤薬局におけるﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄに関する研究
	講　師 薬博	中山　章	・学校薬剤師と地域薬事衛生に関する研究
	講　師 薬博	櫻田　渉	・薬局における薬剤師の業務内容の研究
	講　師	高村　茂生	・
	講　師 薬博	早坂　敬明	・
(病院薬学)	教　授 薬博	遠藤　泰	・薬剤師業務、ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄならびに副作用に関する薬学的研究
	講　師 薬博	岩尾　一生	・健康食品による薬物動態への影響に関する研究
	講　師 薬博	木村　治	・薬毒物の体内動態に関する研究
	講　師 薬修	千葉　智子	・医療安全管理と医薬品の適正使用に関する研究
	助　教 薬修	藤崎　博子	・お薬手帳の普及とその活用に関する研究
	助　教 薬修	及川　孝司	・入院患者薬物治療への薬剤師による介入とその評価
薬学教育推進			
(薬学教育支援室)	教　授 薬博	中川　宏治	・がん細胞の低酸素適応応答に関する分子生物学的研究
	准教授 薬博	木村　真一	・ﾗｯﾄ脳神経細胞の機能に関する研究
	教　授 歯博	笠師久美子	・医療系学部におけるスポーツ医療教育の探索と検証
薬用植物園・北方系生態観察園	准教授 薬博	堀田　清	・荒れた森の復活研究「北海道医療大学・北方系生態観察園の里山化」
人間基礎科学	教　授 理博	鈴木　一郎	・新規不斉有機分子触媒の開発と有機合成への応用
	教　授 工博	二瓶　裕之	・人工的な光学結晶を用いた光情報通信の理論的研究
	教　授 TESOL修	足利　俊彦	・語用論、特に中間言語語用論に基づく異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの研究
	教　授 理博	長谷川敦司	・光散乱を利用した様々な微粒子の物性測定手法の開発
			・光の干渉縞を利用した低速流体の流速計測
	准教授 理博	近藤　朋子	・内分泌撹乱化学物質による生体への影響の解明
	准教授 薬博	新岡　丈治	・イメージング技術を用いた、血流動態と調節機序に関する研究
	准教授 工博	堀内　正隆	・βGRPとｶｰﾄﾞﾗﾝによる簡便で低ｺｽﾄな組換えﾀﾝﾊﾟｸ質固定化法の研究
	講　師 法博	姫嶋　瑞穂	・植民地台湾監獄法制の展開に関する実証的研究
	講　師 理博	原田　潤平	・非結合代数の物理学への応用に関する研究

○歯学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
口腔機能修復・再建学系			
（歯周歯内治療学）	教　授 歯博	古市　保志	・歯周組織再生に関する研究
			・歯周病と全身的な疾患との関連性に関する研究
	講　師 歯博	加藤　幸紀	・歯周病関連細菌感染ﾏｸﾛﾌｧｰｼﾞにおけるｱﾎﾟﾄｰｼｽ誘導に関する研究
	講　師 歯博	白井　　要	・FGF-2が歯根膜由来細胞による血管新生に及ぼす影響
	助　教 歯博	清水伸太郎	・日本人歯周炎患者のｹﾞﾉﾑﾜｲﾄﾞ関連解析
	助　教 歯博	山田　　梓	・
※	助　手 歯博	松本　光生	・
（う蝕制御治療学）	教　授 歯博	斎藤　隆史	・象牙質再石灰化・再生技術を応用した新規齲蝕治療法の開発
	講　師 歯博	泉川　昌宣	・ﾎﾀﾃ貝殻の歯科材料への応用に関する研究
	講　師 歯博	松田　康裕	・歯の脱灰、再石灰化に関する研究
			・う蝕の個体差に関する研究
	助　教 歯博	永井　康彦	・歯根面う蝕に関する研究
	助　教 歯博	油井　知雄	・破骨細胞分化機構の解析
※	助　手	猪熊　孝憲	・
※	助　手	諏訪　涼子	・
※	助　手	谷口　未季	・
（高度先進保存学）	教　授 歯博	川上　智史	・Er:YAGﾚｰｻﾞｰの歯科臨床応用に関する研究
	講　師 歯博	森　　真理	・早産と歯周病に関する研究
	助　教 歯博	尾立　達治	・消毒剤の歯科用金属製器材に対する腐食性
	助　教	小西ゆみ子	・歯周病と高感度CRPとの関連について
※	助　手	佐藤　幸平	・ユニバーサルボンディング材の初期・長期耐久性に関する研究
※	助　手	田端晋太郎	・
※	助　手	山本　直弥	・
※	助　手	坂本　智彦	・
（咬合再建補綴学）	教　授 歯博	越野　　寿	・加齢に伴う顎口腔系機能の変化とその機能回復法に関する研究
	准教授 歯博	豊下　祥史	・咀嚼機能が糖代謝に及ぼす影響に関する研究
	助　教 歯博	佐々木みづほ	・ｵｰﾗﾙﾃﾞｨｽﾄﾞｺﾈｼｽを利用した簡便に行えるｻﾙｺﾍﾟﾆｱ進行度評価法の開発
	助　教 歯博	菅　　悠希	・ﾏｳｽにおける飼料性状の変更による咀嚼動態の相違が糖代謝系に与える影響
	助　教 歯博	竹田　洋輔	・咀嚼機能の変化が認知機能に与える影響
※	助　手	山崎　真郎	・人工歯の耐摩耗性に関する臨床研究
※	助　手	朝廣　賢哉	・歯科訪問診療における歯科医師の疲労軽減策の提案に関する研究
※	助　手	木村　　聡	・人工歯の耐摩耗性に関する臨床研究
※	助　手	佐藤　夏彩	・人工歯の耐摩耗性に関する臨床研究
（ｸﾗｳﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ補綴学）	教　授 歯博	越智　守生	・生体電気刺激の口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄへの臨床応用
	准教授 歯博	広瀬由紀人	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ周囲組織を再生するﾃｨｯｼｭｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ
	講　師 歯博	仲西　康裕	・低出力ﾊﾟﾙｽ超音波刺激によるｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ周囲骨形成の促進
	助　教 歯博	木村　和代	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ患者の統計分析
	助　教 歯博	山口　摂崇	・高齢就労者における職業性ｽﾄﾚｽがﾛ腔機能に与える影響に関する研究
※	助　手	山田　哲郎	・
※	助　手	三上　　進	・
（高度先進補綴学）	教　授 歯博	舞田　健夫	・口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄに関する臨床的研究
	講　師 歯博	田村　　誠	・HAｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ薄膜の構造と溶解性について
	助　教 歯博	神成　克映	・ﾁﾀﾝと陶材の溶着強さに関する研究およびﾁﾀﾝ製溶着鋳造冠の臨床応用について
※	助　手	兼子　敬史	・
※	助　手	熊谷　　渉	・
※	助　手	内山　明生	・
（デジタル歯科医学）	教　授 歯博	疋田　一洋	・歯科用CAD/CAMｼｽﾃﾑの臨床応用
※	助　手	伊藤亜希子	・
（生体材料工学）	教　授 歯博/工博	遠藤　一彦	・化学修飾法を用いたｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ表面の機能化
			・金属系ﾊﾞｲｵﾏﾃﾘｱﾙの生体内腐食機構の解明と高耐食性合金の開発
	准教授 理博	根津　尚史	・歯科生体材料表面のｺﾛｲﾄﾞｽｹｰﾙでの機能化に関する研究
	助　教 歯博	建部　二三	・ﾁﾀﾝ表面改質による抗菌性ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄ材料の研究
生体機能・病態学系			
（組織再建口腔外科学）	教　授 歯博	奥村　一彦	・自然免疫分子ｶｾﾘｼﾝﾋﾞﾝの腫瘍抑制効果に対するmiRNA制御機構の解明
	教　授 歯博	志茂　　剛	・顎骨破壊病変制御と顎骨再生
	助　教	武田　成浩	・顎変形症の診断と治療に関する研究（特に下顎非対称解析法の確立に関する研究）
	助　教 歯博	淀川慎太郎	・形態形成遺伝子HOXが癌転移におよぼす影響
	助　教 歯博	松沢　史宏	・歯根吸収とｾﾒﾝﾄ質関連細胞の細胞死との因果関係
（顎顔面口腔外科学）	教　授 歯博	永易　裕樹	・ﾋﾄﾛ腔癌細胞の浸潤、転移能の促進因子に関する研究
	助　教 歯博	佐々木智也	・体液浸透性ﾊﾞｲｵﾐﾒﾃｨｯｸｾﾗﾐｯｸｽの開発と骨再生
	助　教 歯博	石川　昌洋	・口腔ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄの3次元有限要素解析の研究
	助　教 歯博	南田　康人	・傾斜機能構造を有した生体活性型ｾﾗﾐｯｸｽの開発
	助　教 歯博	原田　文也	・歯周病原菌細菌由来LPSの全身投与ﾏｳｽにおける腎臓での遺伝子発現変化とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ修飾の解析
※	助　手	佐野　聖子	・
	助　手	若林茉梨絵	・
※	助　手	関　　姫乃	・顎義歯補綴における印象採得のデジタル化の検討
（口腔再生医学）	教　授 歯博	村田　　勝	・超音波脱灰骨／象牙質の骨誘導活性と構造特性の評価

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
（歯科麻酔科学）	教　授 歯博	照光　　真	・三叉神経神経障害性疼痛の機構解明
	講　師 歯博	吉本　裕代	・慢性疼痛の中枢神経ﾒｶﾆｽﾞﾑに関する研究
	講　師 歯博	金澤　　香	・顎変形症手術における麻酔薬の相違による循環動態の変動について
	助　教	大桶　華子	・ｶｵｽ･ﾌﾗｸﾀﾙ解析を用いた歯科治療時に患者が感じる不快感の定量評価に関する研究
（歯科放射線学）	教　授 歯博	中山　英二	・顎顔面口腔領域疾患の画像所見解析とInterventional Radiologyに関する研究
	講　師 歯博	佐野　友昭	・X線照射造影剤からのﾌﾘｰﾗｼﾞｶﾙ発生と抗HBs抗体の放射線防護能に関する研究
	助　教	杉浦　一考	・口腔癌に対するInterventional Radiologyの応用に関する研究
※	助　手	田代　真康	・ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞﾌﾟﾚｰﾄにおける光減衰が診断能に及ぼす影響に関する研究
（高齢者・有病者歯科学）	教　授 歯博	會田　英紀	・光機能化ﾊﾞｲｵﾏﾃﾘｱﾙに関するﾄﾗﾝｽﾚｰｼｮﾅﾙﾘｻｰﾁ
	講　師 歯博	塚越　　慎	・ﾏｲｸﾛｽｺｰﾌﾟの歯内治療への応用
	助　教	尾立　　光	・歯科訪問診療が施設高齢者の口腔衛生状態に及ぼす影響に関する研究
※	助　手	三重野花菜	・当院における歯科訪問診療患者の欠損病態についての実態調査
（臨床口腔病理学）	教　授 歯博	安彦　善裕	・口腔疾患発症に関わるｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｯｸｽとその治療への応用
	講　師 歯博	佐藤　　惇	・上皮性抗菌ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞに関する研究
	助　教 歯博	吉田　光希	・口腔疾患の発症に関するｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ
	助　教 歯博	森川　哲郎	・歯周病原菌の脳への影響に関する研究
（内科学）	教　授 医博	家子　正裕	・抗リン脂質ｊ抗体症候群の診断方法の開発と血栓機序の解明に関する研究
			・直接経口抗凝固薬の確認試験の開発と有用性の検討に関する研究
			・凝固検査の標準化に関する研究
	准教授 医博	髙橋　伸彦	・肥満や糖・脂質代謝異常の病態に関する分子生物学的検討
	講　師 医博	大村　一将	・凝固系ｶｽｹｰﾄﾞと炎症応答との分子生物学的関連に関する検討
口腔構造・機能発育学系			
（歯科矯正学）			
	教　授 歯博	飯嶋　雅弘	・歯科矯正用材料に関する研究
	講　師 歯博	六車　武史	・矯正用ﾜｲﾔｰとﾌﾞﾗｹｯﾄの表面処理による摩擦特性
	講　師 歯博	岡山　三紀	・分子生物学的手法を用いた歯の移動と歯根吸収に関する研究
	助　教 歯博	山崎　敦永	・ﾏﾗｯｾ遺残上皮が歯周組織に与える影響
	助　教 歯博	島谷奈保子	・ﾗｯﾄ顎関節円板由来線維芽細胞の伸展力および圧縮力による細胞外基質の変化の検討
	助　教 歯博	中尾　友也	・関節負荷に対する顎関節領域の反応特性に関する研究
	助　教 歯博	樫尾　治奈	・伸展刺激による顎関節円板細胞の細胞外基質の変化に関する研究
※	助　手 歯博	富田　侑希	・口腔内ｽｷｬﾅと3Dﾌﾟﾘﾝﾀの精度と歯科矯正学的有用性に関する検討
※	助　手 歯博	尾立　卓弥	・関節荷重の改変が下顎頭軟骨に及ぼす影響
※	助　手 歯博	川村　尚彦	・頭蓋顎顔面領域における骨補填用途の3Dバイオプリンティングスキャフォールドの開発
（小児歯科学）	教　授 歯博	齊藤　正人	・口腔粘膜の分化･増殖における抗細菌性ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞの関与
	准教授 歯博	広瀬　弥奈	・唾液、歯垢によるｶﾘｴｽﾘｽｸ診断と部位特異性を考慮したう蝕予防法の確立
	講　師 歯博	八幡　祥子	・ｴﾅﾒﾙ質表層ﾌｯ素濃度および歯垢の齲蝕誘発能における口腔内部位特異性に関する研究
	講　師 歯博	倉重　圭史	・歯髄由来、未分化間葉系幹細胞に関する研究
	助　教 歯博	野呂　大輔	・ﾏﾗｯｾ上皮様細胞が骨芽細胞様細胞に与える影響について
	助　教 歯博	大友麻衣子	・ﾏﾗｯｾ上皮様細胞がｾﾒﾝﾄ質および歯槽骨に与える影響に関する研究
	助　教 歯博	福田　敦史	・歯垢における齲蝕誘発能の口腔内部位特異性に関する研究
※	助　手 歯博	榊原さや夏	・球状微粒子添加によるMTAｾﾒﾝﾄの操作性改善とその象牙質誘導能
※	助　手 歯博	藤田　裕介	・接着性モノマーのカルシウム塩を配合した新規ボンディング座の開発
（保健衛生学）	教　授 歯博	千葉　逸朗	・ｽﾘﾗﾝｶにおける口腔がんの分子疫学的解析､化学予防に関する研究
	准教授 臨床心理博	松岡　紘史	・心身症の認知行動的ﾒｶﾆｽﾞﾑの検討および治療法の開発
	講　師 歯博	水谷　博幸	・地域口腔保健ｻｰﾋﾞｽに関する疫学調査に関する研究
	助　教 歯博	植原　　治	・口腔疾患とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ修飾の関係について
（解剖学）	教　授 医博	坂倉　康則	・軟骨細胞・骨細胞の生存に関わる分子メカニズムの解明
	助　教 歯博	渋井　　徹	・歯槽骨の改造と骨細胞の生存における低酸素応答因子の役割
	助　教 歯博	髙橋　昌己	・ヒト頭部の副交感神経節における肉眼解剖学的・組織学的研究
（組織学）	教　授 歯博	入江　一元	・骨および歯周組織の改造と再生に関する細胞生物学的研究
	准教授 歯博	細矢　明宏	・歯髄幹細胞の特性解析と象牙質再生療法への応用
	助　教 歯博	建部　廣明	・歯槽骨の再生に関する細胞生物学的研究
口腔生物学系			
（生理学）	教　授 歯博	石井　久淑	・顎・顔面・頭部領域の血流動態における三叉－自律神経系の役割とそれらの関連脳領域の機能修飾機構に関する研究
	講　師 歯博	佐藤　寿哉	・口腔顔面領域における三叉神経・自律神経反射に関連する分子生物学的研究
（生化学）	教　授 栄養博	荒川　俊哉	・ｹﾞﾉﾑ編集とﾒｶﾆｶﾙｽﾄﾚｽによるｼｸﾞﾅﾙを応用した歯根膜の再生研究
	助　教 理博	尾西みほ子	・白血球の生体防御酵素に関する研究
			・歯牙硬組織に関する研究
	助　教 歯博	唐　　佳	・象牙質再生に関する研究
	助　教 歯博	髙田　鮎子	・
（薬理学）	教　授 理博	谷村　明彦	・蛍光分子ｾﾝｻｰとｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ技術の開発と応用
	准教授 歯博	根津　顕弘	・In vivoﾗｲﾌﾞｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞを使った唾液腺のｶﾙｼｳﾑ応答と唾液分泌機構の解明
	助　教 歯博	村田　佳織	・歯原性上皮細胞の分化とﾏｲｸﾞﾚｰｼｮﾝにおけるｶﾙｼｳﾑ応答の解析
（微生物学）	教　授 薬博	永野　恵司	・口腔細菌の性状および病原因子に関する研究
			・細菌の薬剤耐性機構に関する研究
	講　師 歯博	宮川　博史	・歯周疾患における糖非分解性偏性嫌気性ｸﾞﾗﾑ陽性桿菌の役割
	助　教 歯博	藤田　真理	・ﾊﾞｲｵﾌｨﾙﾑにおける天然由来抗菌成分の浸透機構解析ならびに定量的評価の検討
総合教育学系			
（臨床教育管理運営）	教　授 歯博	長澤　敏行	・歯周病原細菌とｱﾎﾟﾘﾎﾟ蛋白の分子相同性がもたらす心臓血管系疾患の診断と治療
	講　師 歯博	村田　幸枝	・ｴﾅﾒﾙ質表層下脱灰における再石灰化に関する研究
	講　師 歯博	川西　克弥	・口腔機能低下が脳神経活動に及ぼす影響に関する研究
（歯学教育開発学）	教　授 歯博	伊藤　修一	・接着性修復材料の耐久性に関する研究
	准教授 歯博	門　　貴司	・ｲﾝﾌﾟﾗﾝﾄの表面改質に関する研究
教養教育学系			
（人間基礎科学）	教　授 TESOL修	塚越　博史	・EFL教材開発ｽﾄﾗﾃｼﾞｰ
			・異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ･医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育法
	准教授 比較社会文化学博	佐藤　圭史	・国際関係論：ﾕｰﾗｼｱ地域における地域紛争・民族紛争の生成要因分析、大衆動員・扇動のﾒｶﾆｽﾞﾑ分析
	講　師 学際情報修	礒部　太一	・科学技術・医学に関わる倫理的・法的・社会的問題の研究
			・科学技術・医学と社会の関係性
	講　師 理博	中野　論人	・主に分光的手法による誘電体および強相関電子系における各種相転移の転移ﾒｶﾆｽﾞﾑの研究
			・弾性光散乱を用いた高密度粒子系の粒子ｻｲｽﾞ評価法の研究

※　任期制助手

○看護福祉学部

講座	職位・学位	氏名	主な研究内容
看護学科			
【生命基礎科学】	教　授 医博	西　　基	・小児悪性腫瘍の疫学的研究
			・社会病理現象の疫学的研究
	教　授 医博	小林　正伸	・低酸素･低栄養環境に対する癌細胞の適応機構
			・幹細胞の定着と移動の機構
			・口腔ﾌﾛｰﾗと消化器がんの発症
	教　授 医博	濱田　淳一	・がんの転移・浸潤の機序解明とその阻止法の開発
			・がん細胞の多様性の出現および維持機構の解明
【実践基礎看護学】	教　授 看護博	平　　典子	・がん患者と家族の適応に関する研究
	准教授 看護修	杉田　久子	・臨床看護実践における看護師の知の構築ﾌﾟﾛｾｽに関する研究
	准教授 看護博	明野　伸次	・エビデンスに基づく看護技術の可視化と開発に関する研究
	講　師 教育修	福井　純子	・看護職のｷｬﾘｱ開発と支援に関する研究
	講　師 看護修	早出　春美	・学生の看護技術習得に関する研究、抗がん剤曝露予防のための教育に関する研究
	助　教 看護修	横川亜希子	・ポケットエコーを用いた便秘ケアに関する研究
	助　教	米川　弘樹	・
	助　教	新見　千穂	・
【成人看護学】	教　授 看護博	佐々木栄子	・神経難病療養者と家族を対象とした多職種協働型ｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ支援ﾓﾃﾞﾙ構築
	講　師 看護修	唐津　ふさ	・慢性病者の病いとの折り合いに関する研究
	講　師 看護修	熊谷　歌織	・がんサバイバーの社会的排除の実態に関する研究
	講　師 看護修	神田　直樹	・集中治療における緩和ｹｱに関する研究
	助　教 看護修	髙木　由希	・慢性疾患患者のExistential well-being に関する研究
	助　教 看護修	伊藤加奈子	・ｸﾛｰﾝ病患者における病気の不確かさと関連要因に関する研究
	助　教	高橋　啓太	・
	助　教 看護修	前川　真湖	・
	助　教 看護修	清水　博美	・
【母子看護学】	教　授 看護博	三国　久美	・小児の発達支援と育児支援
	准教授 看護博	木浪智佳子	・重症心身障害児者の支援に関する研究
	准教授 看護修	常田　美和	・開発途上国におけるﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸﾃｨﾌﾞ･ﾍﾙｽ
	講　師 文修	遠藤紀美恵	・生殖補助医療の倫理的課題
			・産後の母親に対する健康支援
	講　師 看護修	加藤　依子	・食物ｱﾚﾙｷﾞｰの乳幼児を持つ親への支援
	助　教	川﨑ゆかり	・小児科病棟の患児に付き添う母乳育児中の母親への看護に関する研究
	助　教 看護修	嶋田あゆみ	・ﾊｲﾘｽｸ母子の母乳育児支援
【地域保健看護学】	教　授 看護博	山田　律子	・認知症高齢者の摂食・咀嚼・嚥下障害と食支援に関する研究
	教　授 看護博	竹生　礼子	・がんや終末期療養者の在宅療養継続を可能にするための看護援助に関する研究
	教　授 看護博	工藤　禎子	・地域在住高齢者の孤立予防、ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸ、危機管理
	准教授 看護修	萩野　悦子	・認知症高齢者の睡眠障害と看護に関する研究
	准教授 看護修	八木こずえ	・統合失調症患者の自我強化及びうつ病患者の看護面接に関する研究
	准教授 看護修	宮地　普子	・認知症高齢者の生活世界に応じた看護ｹｱの検討
	講　師 看護修	内ヶ島伸也	・認知症高齢者の意思決定支援に関する研究
	講　師 看護修	川添恵理子	・疾病や障害をもちながら生活の場を移動する人の支援に関する研究
	助　教 看護修	明野　聖子	・乳幼児期の親の発達と育児をする喜びに関する研究
	助　教 看護修	中安　隆志	・精神障害者の地域生活支援に関する研究
	助　教 看護修	吉岡　真由	・認知症高齢者の終末期における食生活に関する研究
	助　教 看護修	田中　裕子	・若年性認知症者の退院支援に関する研究
	助　教 看護修	増田　悠佑	・
	助　教 看護修	横山　晃子	・認知症高齢者における不安行動をもたらす要因と穏やかさを保つための予防的ｹｱに関する研究
	助　教	南山斗志世	・
【臨床看護学】	教　授 公衆衛生博	塚本　容子	・「医療の質保証・向上に関する研究」及び「HIVに関する研究」
	講　師 看護修	石角　鈴華	・
	講　師 看護修	山田　　拓	・
	助　教 看護修	三津橋梨絵	・
臨床福祉学科			
【社会福祉学】	教　授 医博	志渡　晃一	・社会福祉専門職の職務満足度とその関連要因
	教　授 教育博	白石　　淳	・子どもの進路選択におけるﾊﾞﾘｱの形成とその支援に関する研究
	教　授 教育博	大友　芳恵	・高齢者の貧困～低所得高齢者の生活実態と尊厳をめぐる諸課題の検討～
	准教授 文修	長谷川　聡	・地域コミュニケーションと福祉のまちづくり実践研究
	准教授 社会福祉修	巻　　康弘	・医療ソーシャルワークチームの構造とスーパービジョンに関する研究
			・ソーシャルワークスキルの評価方法に関する研究
	講　師 教育修	福間　麻紀	・社会的・経済的条件の違いによる障害者の生活困難の解明
	助　教 教育修	近藤　尚也	・重度障害児者の身体活動と日常生活及び余暇活動支援に関する研究
	助　教 社会福祉博	松本　　望	・施設内虐待の予防に関する研究
	助　教 臨床福祉修	片山　寛信	・児童養護施設等の退所者のアフターケアに関する研究
【精神保健福祉学】	教　授	向谷地生良	・当事者研究活動を通じた精神障害者のｾﾙﾌｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄに関する研究
			・専門家・住民間のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと地域福祉ｼｽﾃﾑづくりに関する研究
	准教授 臨床福祉修	佐藤　園美	・精神障害者の地域支援に関する研究
	講　師 SW修	奥田かおり	・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ(ﾌﾟﾚｲﾊﾞｯｸｼｱﾀｰ、SST等)の効力、治癒力についての研究
			・ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習現場での効果的なｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝ法についての研究
【介護福祉学】	教　授 社会修	志水　　幸	・社会福祉理論研究における方法論的課題に関する検討
	講　師 社会修	志水　　朱	・介護福祉実習におけるｶﾝﾌｧﾚﾝｽのあり方について
	講　師 社会福祉修	池森　康裕	・高齢者の社会活動と介護予防に関する研究
	講　師 看護修	下山美由紀	・老人福祉施設に勤務する看護代表者の役割意識に関する研修
	助　教	高橋　由紀	・認知症高齢者の家族支援に関する研究
【人間基礎科学】	教　授 社会福祉修	ﾊﾜｰﾄﾞ･ﾀｰﾉﾌ	・Intercultural Communication and Enthnographic Studies
	教　授 教育博	森田　　勲	・一般人の体力づくりおよび競技力向上のためのﾄﾚｰﾆﾝｸﾞに関する研究
	教　授 社会博	花渕　馨也	・ｱﾌﾘｶ系移民による故郷への援助活動に関する人類学的研究
	教　授 社会修	薄井　　明	・会話を焦点とする相互行為の社会学的研究
	准教授 文修	鎌田　禎子	・英米文学研究､特に19世紀から現代までのｱﾒﾘｶ散文
	准教授 経済博	櫻井　　潤	・医療保障財政の国際比較を中心とする福祉国家財政の研究
	講　師 文博	井上　貴翔	・探偵小説を中心とした日本近現代文学及び日本近現代文化に関する研究

○心理科学部

学科	職位・学位	氏名	主な研究内容
臨床心理学科	教　授 教育博	坂野　雄二	・不安症、うつ病、及びｽﾄﾚｽ関連疾患の認知行動的基礎ﾒｶﾆｽﾞﾑの解明と治療法開発
	教　授 障害科学博	冨家　直明	・遠隔地医療の方策に関する臨床心理学的研究
	教　授 医博	中野　倫仁	・老年期精神障害の認知生理学的研究と治療技法開発
	教　授	野田　昌道	・協働的/治療的ｱｾｽﾒﾝﾄの適用法及び効果についての研究
			・ﾛｰﾙｼｬｯﾊ・ﾃｽﾄによる家族関係のｱｾｽﾒﾝﾄに関する研究
	教　授 心理博	安部　博史	・学習・情動に関する生理心理学的検討
	准教授 文修	河合　祐子	・ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞにおける協働関係構築ﾌﾟﾛｾｽとｸﾗｲｴﾝﾄ・ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ効果の研究
	准教授 文修	森　伸幸	・認知行動療法、とくに認知の変容に関する基礎および応用的研究
	准教授 臨床心理博	百々　尚美	・ｽﾄﾚｽ状況下での高敵意者の自律神経機能を改善するための心理学的介入技法の開発
	准教授 臨床心理博	金澤潤一郎	・成人期の発達障害に対する認知行動療法
	准教授 臨床心理博	本谷　亮	・慢性疼痛に対する認知行動的ﾒｶﾆｽﾞﾑおよび治療法に関する研究
	講　師 教育修	今井　常晶	・臨床家（臨床心理士・音楽療法士）のｽｰﾊﾟｰﾋﾞｼﾞｮﾝの望ましいあり方についての研究
	講　師 行動科学修	齊藤　恵一	・人間の言語情報処理過程に関する研究
	講　師 文博	真島　理恵	・協力行動の適応的基盤に関する研究
	講　師 教育修	松本由起子	・近現代の家族・福祉とﾌﾛｲﾄ派精神分析の可能性および分析技法の認知言語学的側面
	助　教 臨床心理博	関口　真有	・糖尿病患者に対する問題解決療法ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの作成と効果検証
	助　教 医博	西郷　達雄	・過敏性腸症候群における認知行動理論を基盤としたﾒｶﾆｽﾞﾑの解明と治療ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの開発
			・大学生における修学不適応を中心とした休学および退学に関する予防的研究
	助　教 臨床心理修	河村　麻果	・心理援助職初任者の研修ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの開発について
			・認知行動療法をより効果的に提供するためのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技能の検討
	助　教 情報科学博	西牧　可織	・動的再構成可能な光素子を用いた光通信ｼｽﾃﾑに関する研究

○リハビリテーション科学部

学科	職位・学位	氏名	主な研究内容
理学療法学科	教　授	泉　唯史	・運動強度増加に対する左室収縮能および拡張能応答変化の評価法の開発および解析
	教　授 医博	小島　悟	・ﾋﾄの姿勢制御及び身体動作に関するﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究
	教　授 保健博	鈴木　英樹	・積雪寒冷地における高齢者の転倒骨折予防の方策に関する研究
	教　授 学術博	高橋　尚明	・解剖学的視点を用いた姿勢管理、ならびに運動解析に関する研究
	教　授 医博	吉田　晋	・姿勢・運動制御に関する中枢神経ﾒｶﾆｽﾞﾑの解明とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝへの応用
	教　授 医博	青木　光広	・運動器疾患の病態の解明につながるﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究、特にｽﾎﾟｰﾂ障害と高齢者疾患について
	教　授 障害科学修	武田　涼子	・日常生活活動の定型性と動作選択に関する身体運動学的研究
	教　授 歯博	山口　明彦	・運動による骨格筋線維組成の変化及び筋肥大に関する研究
	准教授 学術博	宮﨑　充功	・骨格筋の可塑性を制御する分子機構の解析
	講　師 保健科学修	長谷川純子	・発展途上国で簡便に使用可能な初期低栄養児ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ法の開発
			・積雪寒冷地に居住する高齢者の季節性フレイルに関する研究
	講　師 医科学修	佐々木祐二	・徒手的理学療法の手技と効果に関する研究
	講　師 ｽﾎﾟｰﾂ科学修	澤田　篤史	・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに対する臨床栄養学的ｱﾌﾟﾛｰﾁ法の検討
			・がん悪液質患者の骨格筋に対する理学療法とBCAA摂取の効果
	講　師 理学療法博	大須田祐亮	・小児理学療法分野の評価・介入に関する研究
	講　師 体育科学博	井上恒志郎	・運動で高まる海馬の神経可塑性とその分子基盤の解明
	助　教 理学療法修	中村　宅雄	・筋骨格系に対する機能解剖と理学療法への応用
	助　教 理学療法修	山根　裕司	・健常人における体幹屈曲伸展時の胸腰椎の運動学的解析
	助　教 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ修	大内みふか	・骨盤底機能障害に対する運動療法に関する研究
	助　教 理学療法修	佐藤　一成	・臨床実習指導における研究
	助　教 学術博	鈴木　伸弥	・ﾋﾄの運動調節にかかわる神経機序の解明とその応用
	助　教 健康科学博	岩部　達也	・呼吸が中枢神経系に及ぼす影響とその臨床応用
	助　教 保健学修	多田　菊代	・生活習慣病を主とする成人保健学領域の理学療法および高齢者の健康支援に関する研究
作業療法学科	教　授 作業療法博	鎌田　樹寛	・作業療法における手工芸に対する自己効力評価表の開発に関する研究
	教　授 作業療法博	本家　寿洋	・高齢者の余暇活動の楽しさにおける治療開発とその効果に関する研究
	教　授 ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ心理修	近藤　里美	・医療保健福祉現場での音楽療法の質的研究
			・音楽療法士の継続教育
	教　授 法学修	岩瀬　義昭	・作業療法に関する教育学・教育史　作業分析学
	准教授 芸術工博	浅野　雅子	・精神障害者に対する音楽療法の介入研究
	准教授 人間福祉修	坂上　哲可	・高齢者の主観的健康観と作業ﾊﾞﾗﾝｽの関係について
	准教授 経済博	千葉　芳広	・医療・衛生に関する社会経済史研究
	講　師 人間生活修	浅野　葉子	・高齢者の社会参加の意味に関する研究
	講　師 社会福祉修	朝日まどか	・「訪問作業療法」の効果をめぐる言説についてー批判的言説分析からー
	講　師 保健科学修	木村　恵	・発達領域における視覚認知評価ﾊﾞｯﾃﾘｰに関する研究
	講　師 歯博	西出　真也	・ﾏｳｽの行動や生理指標の測定、および蛍光や生物発光を利用した細胞ｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞによる、概日ﾘｽﾞﾑの研究
	助　教 作業療法博	児玉　壮志	・精神病に対するｱﾝﾁｽﾃｨｸﾞﾏ活動と精神病未治療期間に関する研究
	助　教 保健科学博	桜庭　聡	・
言語聴覚療法学科	教　授 歯博	今井　智子	・音韻発達および音韻障害に関する要因についての研究
	教　授 歯博	木下　憲治	・摂食・嚥下障害の臨床的検査方法に関する研究
			・摂食・嚥下機能の発達に関する研究
	教　授 医博	下村　敦司	・転写およびｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽ制御による聴神経分化ﾒｶﾆｽﾞﾑの解明
	教　授 医博	中川　賀嗣	・脳と精神的現象の相関に関する神経心理学的研究
	教　授 医博	西澤　典子	・実験音声学的手法による発声発語系の生理、病態の研究
	教　授 医博	田村　至	・認知症、記憶障害、失語症など高次脳機能障害研究
	准教授 理修	榊原　健一	・歌声および音声の非言語的特徴の生成、知覚に関する研究
	准教授 障害科学博	橋本　竜作	・文字言語学習とその障害に関する神経心理学的研究
	准教授 学術修	福田　真二	・日本語における特異的言語障害の言語学的考察による研究
	准教授 哲博	森元　良太	・科学哲学、とくに生物学と確率・統計の哲学に関する研究
	講　師 学術博	黒﨑　芳子	・失語症、高次脳機能障害に関する神経心理学的研究
	講　師 医博	柳田　早織	・痙攣性発声障害を中心とする音声障害の定量的評価法および治療効果に関する研究
	講　師 言語聴覚修	前田　秀彦	・直接骨導音を利用した無喉頭音声使用者用携帯型拡声器の開発
			・CE-Chirp音による他覚的聴力評価法の研究
	講　師 教育修	小林　健史	・過疎地域におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ障害児の支援体制の構築に関する研究
	講　師 人間科学博	畠山　彰文	・医療従事者におけるデータ解析と統計教育
			・自然環境特に森林が心身の健康に及ぼす影響に関する環境心理学的研究
	助　教 歯博	飯泉　智子	・摂食・嚥下機能の生理およびﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ介入法に関する研究
	助　教 言語聴覚修	葛西　聡子	・「小児における人工内耳装用と構音の関係」についての研究
	助　教 保健科学博	高倉　祐樹	・脳血管障害と神経変性疾患による失構音（発語失行）の病態機序に関する研究

○予防医療科学センター

部門	職位・学位	氏名	主な研究内容
【医学部門】	教　授 医博	北市　伸義	・ベーチェット病など炎症性疾患「および眼感染症の」免疫学的、分子遺伝学的、および国際的研究
	教　授 医博	森谷　　満	・胃潰瘍、機能性ﾃﾞｨｽﾍﾟﾌﾟｼｱ、糖尿病の心身医学的研究
			・ｺｰﾁﾝｸﾞ心理学の応用と幸せへの医学に関する研究
	教　授 医博	工藤　俊彦	・
	教　授 歯博	岡村　敏弘	・医療政策・医療管理学的観点からみた医療費の地域格差の分析と対応及び評価のあり方に関する研究
	教　授 医博	福田　　諭	・
	教　授 医博	吉田　純一	・
	教　授	小林　國彦	・接着性レジンの臨床応用に関する研究
	准教授 医博	柴田　睦郎	・根拠に基づく臨床における質的ﾃﾞｰﾀの評価法（ｴﾋﾞﾃﾞﾝｽのﾚﾍﾞﾙ）の検討
	講　師	櫻田　理佳	・
	講　師 医博	河野　　豊	・機能性植物を用いた脂肪性肝疾患への治療応用に関する基礎的検討
	講　師 医博	齋藤　晶理	・
	講　師	島田　康亮	・
	講　師 医博	金　　学海	・
	助　教	西村　萌美	・

○健康科学研究所

	職位・学位	氏名	主な研究内容
	教　授 医博	太田　　亨	・ｹﾞﾉﾑｲﾝﾌﾟﾘﾝﾃｨﾝｸﾞ機構の解明
	助　教 歯博	髙井　理衣	・口腔および全身疾患の発症とｴﾋﾟｼﾞｪﾈﾃｨｸｽに関する研究

○医療技術学部

部門	職位・学位	氏名	主な研究内容
	教　授 医博	幸村　　近	・循環器疾患における血栓止血関連、生理機能関連の臨床検査
	教　授 歯博	田中　真樹	・ﾃﾞｷｽﾄﾗﾝ硫酸ﾅﾄﾘｳﾑ誘発腸炎ﾏｳｽにおけるｴｿﾞﾘｺｷﾞの効果に対する基礎的検討
	教　授 医博	藏滿　保宏	・膵癌予防開発の研究
	教　授 医博	遠藤　輝夫	・胎児・新生児溶血性疾患の発症予測としての高感度IgGサブクラス解析
			・輸血・移植、化学的検査法の改良と臨床検査への応用
	教　授 医博	吉田　　繁	・遺伝子検査の標準化に関する研究
	教　授 医博	坊垣　暁之	・自己免疫疾患に関する研究
	教　授 医博	松尾　淳司	・細胞内寄生体による宿主細胞への感染機構の解析
	講　師 医博	丸川　活司	・遺伝子発現プロファイルに基づく膵臓癌の免疫組織化学的サブタイピングの確立
			・分子病理学的検索を目的とした体腔液セルブロック作製法に関する研究
	講　師 医博	近藤　　啓	・口腔細胞診における細胞判定基準に関する研究
	講　師 医博	江本　美穂	・病態ﾓﾃﾞﾙﾏｳｽを用いた脳内酸化ｽﾄﾚｽのｲﾒｰｼﾞﾝｸﾞ研究
	講　師 医博	髙橋　祐輔	・機能性植物がﾋﾄ血液細胞に及ぼす影響およびその分子機構の解析
	講　師 保健博	髙橋　祐司	・高比重ﾘﾎﾟﾀﾝﾊﾟｸ質（HDL）亜分画中のｺﾚｽﾃｰﾙ測定に関する研究
			・輸血・移植検査に関する研究
	講　師 保健博	山﨑　智拡	・寄生性細菌の病態形成機構に関する研究
	講　師 理博	鈴木　喜一	・分子整列技術を利用した、円二色性光電子分光の新展開
	講　師 TESOL修/応用言語修	白鳥亜矢子	・ﾀｽｸを用いた英語教授法の研究
			・ﾀｽｸ関連研究
	助　教	小野　誠司	・生体で発生する微小電位計測
	助　教	沖野久美子	・

(2) 担当授業時間

専任教員の「授業担当時間」、「兼担状況」、他大学の非常勤講師等の「兼任状況」、及び「本学出身比率」を以下に示した。本務の授業担当では、同じ職位においても担当時間数に大きな開きがみられることから、特定の教員に過大な負担がかからない配慮が求められる。

専任教員であるからには就業規則に則って職務を遂行し、教育や研究、学生指導、管理運営業務等の本務に専念することが当然の義務であるが、やむを得ない事由で学外勤務(出向)をせざるを得ない場合は、本務に支障が生じないことを条件として、教授会等の承認の下、週 1 日に限って認めている。

① 専任教員週当たり授業担当状況(2018 年度実績)

学部	区分	教授	准教授	講師	助教
薬学部 (64 人)	最高	7.2	9.6	5.8	5.4
	最低	3.8	1.7	0.0	0.0
	平均	5.2	4.6	3.8	3.3
歯学部 (105 人)	最高	9.9	6.5	6.7	6.0
	最低	0.6	1.0	1.1	0.4
	平均	4.5	4.4	3.1	2.2
看護福祉学部 (68 人)	最高	7.1	7.3	9.0	8.2
	最低	1.9	3.7	0.0	0.0
	平均	5.0	5.2	5.3	4.5
心理科学部 (19 人)	最高	9.0	11.0	11.0	9.5
	最低	6.0	7.0	6.5	3.0
	平均	7.6	8.3	8.3	4.8
リハビリテーション科学部 (51 人)	最高	15.1	8.5	10.2	11.1
	最低	5.5	5.8	5.6	3.5
	平均	7.8	7.5	7.2	5.3

＊単位:時間(1 授業時間:80 分)

＊「海外研修中」「休職中」又は「育児休暇期間中」の教員は除く。

② 専任教員の兼担状況(2018 年度実績)

所属学部等	兼担先	教授		准教授		講師		助教		合計	
		人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数
薬学部	歯学部	1	13	1	15	1	8			3	36
	看護福祉学部	3	64			1	8			4	72
	心理科学部			1	8					1	8
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部										
歯学部	薬学部	1	8							1	8
	看護福祉学部			1	12	1	4			2	16
	心理科学部										
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	8	90	3	20	4	18	2	10	17	138
看護福祉学部	薬学部	1	4							1	4
	歯学部	3	13	2	9	2	11			7	33
	心理科学部	4	84	1	12	1	18			6	114
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	4	70					2	16	6	86
心理科学部	薬学部	1	2							1	2
	歯学部										
	看護福祉学部	1	38	1	38	1	96			3	172
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	1	28	2	46	1	26			4	100
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	薬学部	1	90	1	30	2	163			4	283
	歯学部	9	251	1	30	2	92			12	373
	看護福祉学部	5	56	2	35	5	66	1	4	13	161
	心理科学部	8	430	4	106	3	180	3	70	18	786

＊大学教育開発センター教員による全学教育科目の担当は含まない

③ 専任教員の兼任状況(2018 年度実績)

学部等		教授		准教授		講師		助教		合計	
		人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数	人数	時間数
薬学部		5	107	7	163	1	30	1	10	14	310
	最大時間数		30		39		30		10		
	平均時間数		21		23		30		10		22
歯学部		18	144	2	21	8	138	4	70	33	397
	最大時間数		16		10		44		30		
	平均時間数		8		11		17		17		12
看護福祉学部		13	708	6	146	5	188	3	125	27	1,167
	最大時間数		120		30		60		30		
	平均時間数		54		24		37		41		43
心理科学部		4	97			2	90			6	187
	最大時間数		30				30				
	平均時間数		24				45				31
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部		12	252	3	62	4	192	4	90	23	596
	最大時間数		40		30		120		52		
	平均時間数		21		20		48		22		25
予防医療科学ｾﾝﾀｰ				1	30					1	30
	最大時間数			30							
	平均時間数			30						30	0

④ 専任教員の本学出身比率

学部等	職位	本学出身者・比率		
薬学部	講師以上	22 ／	56	39.3%
	助教	8 ／	13	61.5%
歯学部	講師以上	33 ／	63	52.4%
	助教	35 ／	41	85.4%
看護福祉学部	講師以上	20 ／	48	41.7%
	助教	15 ／	22	68.2%
心理科学部	講師以上	3 ／	14	21.4%
	助教	3 ／	4	75.0%
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	講師以上	1 ／	40	2.5%
	助教	3 ／	12	25.0%
医療技術学部	講師以上	1 ／	14	7.1%
	助教	0 ／	2	0.0%
予防医療科学ｾﾝﾀｰ	講師以上	0 ／	13	0.0%
	助教	0 ／	1	0.0%
健康科学研究所	講師以上	0 ／	1	0.0%
	助教	1 ／	1	100.0%
合計	講師以上	80 ／	249	32.1%
	助教	65 ／	96	67.7%

（３）年齢構成

学部等	職位	66歳以上	61～65歳	56～60歳	51～55歳	46～50歳	41～45歳	36～40歳	31～35歳	30歳以下	計	平均年齢
薬学部	教 授	2	3	6	8	3					22	56.7
		9.1%	13.6%	27.3%	36.4%	13.6%					100.0%	
	准教授		1	2	6	5	4				18	50.7
			5.6%	11.1%	33.3%	27.8%	22.2%				100.0%	
	講 師		1		3	3	7	1	1		16	45.3
			6.3%		18.8%	18.8%	43.8%	6.3%	6.3%		100.0%	
	助 教						3	4	5	1	13	37.3
							23.1%	30.8%	38.5%	7.7%	100.0%	
	助 手									1	1	29.0
										100.0%	100.0%	
	計	2	5	8	17	11	14	5	6	2	70	48.5
		2.9%	7.1%	11.4%	24.3%	15.7%	20.0%	7.1%	8.6%	2.9%	100.0%	
歯学部	教 授		6	14	5	4					29	56.4
			20.7%	48.3%	17.2%	13.8%					100.0%	
	准教授			2	1	3	2	2			10	47.7
				20.0%	10.0%	30.0%	20.0%	20.0%			100.0%	
	講 師		1	2	5	3	7	6			24	46.5
			4.2%	8.3%	20.8%	12.5%	29.2%	25.0%	0.0%		100.0%	
	助 教		1	1	4	6	9	12	7	1	41	41.8
			2.4%	2.4%	9.8%	14.6%	22.0%	29.3%	17.1%	2.4%	100.0%	
	任期制助手				1		1	3	10	13	28	31.5
					3.6%		3.6%	10.7%	35.7%	46.4%	100.0%	
	計	0	8	19	16	16	19	23	17	14	132	44.1
		0.0%	6.1%	14.4%	12.1%	12.1%	14.4%	17.4%	12.9%	10.6%	100.0%	
看護福祉学部	教 授	3	5	7	3	1					19	59.3
		15.8%	26.3%	36.8%	15.8%	5.3%					100.0%	
	准教授		1	2	5	1	3				12	51.9
			8.3%	16.7%	41.7%	8.3%	25.0%				100.0%	
	講 師			2	2	9	3	1			17	48.0
				11.8%	11.8%	52.9%	17.6%	5.9%			100.0%	
	助 教					1	7	8	3	3	22	37.7
						4.5%	31.8%	36.4%	13.6%	13.6%	100.0%	
	計	3	6	11	10	12	13	9	3	3	70	48.4
		4.3%	8.6%	15.7%	14.3%	17.1%	18.6%	12.9%	4.3%	4.3%	100.0%	
心理科学部	教 授	1	1		1	1	1				5	55.4
		20.0%	20.0%		20.0%	20.0%	20.0%				100.0%	
	准教授		1	1		1	1	1			5	49.8
			20.0%			20.0%	20.0%	20.0%			100.0%	
	講 師			1	1	1		1			4	49.3
				25.0%	25.0%	25.0%		25.0%			100.0%	
	助 教								4		4	33.5
									100.0%		100.0%	
	計	1	2	2	2	3	2	2	4	0	18	47.6
		5.6%	11.1%	11.1%	11.1%	16.7%	11.1%	11.1%	22.2%	0.0%	100.0%	
リハビリテーション科学部	教 授	1	5	5	4	3					18	56.8
		5.6%	27.8%	27.8%	22.2%	16.7%					100.0%	
	准教授				4		3	1			8	47.6
					50.0%		37.5%	12.5%			100.0%	
	講 師					6	3	2	3		14	42.5
						42.9%	21.4%	14.3%	21.4%		100.0%	
	助 教					2	3	4	3		12	38.8
						16.7%	25.0%	33.3%	25.0%		100.0%	
	計	1	5	5	8	11	9	7	6	0	52	47.4
		1.9%	9.6%	9.6%	15.4%	21.2%	17.3%	13.5%	11.5%	0.0%	100.0%	
医療技術学部	教 授			4		2	1				7	52.7
				57.1%		28.6%	14.3%				100.0%	
	講 師					2	1	3	1	1	8	39.9
						25.0%	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	100.0%	
	助 教			1			1				2	50.0
				50.0%			50.0%				100.0%	
	計	0	0	5	0	4	3	3	1	1	17	46.4
		0.0%	0.0%	29.4%	0.0%	23.5%	17.6%	17.6%	5.9%	5.9%	100.0%	
予防医療科学センター	教 授	2	1	2	1	1					7	59.1
		28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	14.3%					100.0%	
	准教授		1								1	63.0
			100.0%								100.0%	
	講 師						4	1			5	43.2
							80.0%	20.0%			100.0%	
	助教									1	1	29.0
										100.0%	100.0%	
	計	2	2	2	1	1	4	1	0	1	14	51.6
		14.3%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%	100.0%	
健康科学研究所	教 授				1						1	55.0
					100.0%						100.0%	
	助 教								1		1	32.0
									100.0%		100.0%	
	計	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	43.5
		0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
大学合計		9	28	47	55	54	61	47	37	20	358	47.2
		2.5%	7.8%	13.1%	15.4%	15.1%	17.0%	13.1%	10.3%	5.6%	100.0%	

（4）開設授業科目における専任・兼任比率

2019 年度に開講する授業科目を専門教育と全学教育に区分し、それぞれ専任教員が担当する授業科目の割合を算出し、以下に示した。授業科目の内容によっては学外の講師に依存せざるを得ないが、専任教員が高い専門性と責任性の下に教育課程に関与し、質の高い授業を提供するのが大学の責務である。本学の場合、とりわけ専門教育科目において、専任教員担当比率は高く授業担当の状況はおおむね適切であるといえる。なお、兼任教員が一部関わっている授業科目であっても、科目の責任者が専任教員である場合は専任教員が担当する科目に振り分けている。

学部・学科		区分		必修科目	選択科目	全開設授業科目
薬学部	薬学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	87	27	114
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	100%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	18	15	33
			兼任教員担当科目数(B)	0	3	3
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	83%	92%
歯学部	歯学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	56	12	68
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	100%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	26	8	34
			兼任教員担当科目数(B)	2	4	6
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	93%	68%	85%
看護福祉学部	看護学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	66	12	78
			兼任教員担当科目数(B)	4	1	5
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	94%	92%	94%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	6	28	34
			兼任教員担当科目数(B)	0	8	8
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	78%	81%
	臨床福祉学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	16	77	93
			兼任教員担当科目数(B)	2	40	42
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	89%	66%	69%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	5	27	32
			兼任教員担当科目数(B)	1	9	10
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	83%	75%	76%
心理科学部	臨床心理学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	26	23	49
			兼任教員担当科目数(B)	0	16	16
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	59%	75%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	7	2	9
			兼任教員担当科目数(B)	2	17	19
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	78%	11%	32%
リハビリテーション科学部	理学療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	65	14	79
			兼任教員担当科目数(B)	0	1	1
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	93%	99%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	11	19	30
			兼任教員担当科目数(B)	2	2	4
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	85%	90%	88%
	作業療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	68	13	81
			兼任教員担当科目数(B)	0	1	2
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	93%	99%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	12	18	30
			兼任教員担当科目数(B)	2	2	4
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	86%	90%	88%
	言語聴覚療法学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	53	11	64
			兼任教員担当科目数(B)	1	1	2
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	98%	92%	97%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	10	21	31
			兼任教員担当科目数(B)	2	2	4
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	83%	91%	89%
医療技術学部	臨床検査学科	専門教育	専任教員担当科目数(A)	13	0	13
			兼任教員担当科目数(B)	0	0	0
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	0%	100%
		全学教育	専任教員担当科目数(A)	23	0	23
			兼任教員担当科目数(B)	0	6	6
			専任教員担当比率(A／(A＋B)*100)	100%	0%	79%

2. 教育研究支援職員（TA・RA・PD）

本学では、大学院生の奨学に資することを目的として1993年度からTA（ティーチング・アシスタント）制度、1996年度からRA（リサーチ・アシスタント）制度を導入している。TAは授業（教育）の補助的業務、RAはプロジェクト研究等の補助的業務に従事し、教育研究の活性化と高度化を図るものである。2018年度は、合計80名（TA61名、RA19名）を採用している。
また、大学院修了者に対しては、1997 年から特別研究員：PD（ポスト・ドクトラル・フェロー）制度を導入し、学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者の養成を行っており、2016 年度には特別研究員：PD の資格要件から年齢制限を撤廃した。

（1）TA（ティーチング・アシスタント）

① 目的

本学大学院生が、本学の教育業務の遂行を補助し、かつ大学院学生の奨学に資することを目的とする。

② 採用資格

修士課程及び歯学研究科博士課程1・2学年の大学院生
（1996 年度から対象学生を博士課程から修士課程に拡大）

③ 業務内容

以下のいずれかの業務を行う。

- ○ 各学部等の講義・実習（実験）・演習等の授業の補助業務
- ○ 授業実施に関連する前準備・後始末等の業務
- ○ 指導教授が命ずる業務

④ 採用人数

（名）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
薬学部	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
歯学部	25 名	26 名	23 名	27 名	28 名	28 名
看護福祉学部	11 名	10 名	10 名	10 名	8 名	7 名
心理科学部	18 名	21 名	20 名	20 名	23 名	24 名
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学部	1 名	1 名	1 名	1 名	2 名	2 名
計	55 名	58 名	54 名	58 名	61 名	61 名

（2）RA（リサーチ・アシスタント）

① 目的

本学大学院の教育研究の活性化・高度化を図るとともに、大学院学生の奨学に資することを目的とする。

② 採用資格

博士課程の大学院生

③ 業務内容

本学で行うプロジェクト研究等の補助的業務

④ 採用人数

（名）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
薬学研究科	7 名	9 名	9 名	7 名	5 名	6 名
歯学研究科	7 名	6 名	9 名	10 名	14 名	16 名
看護福祉学研究科	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
心理科学研究科	6 名	5 名	4 名	1 名	0 名	1 名
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学研究科	—	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名
計	20 名	20 名	22 名	18 名	19 名	23 名

（3）PD（ポスト・ドクトラル・フェロー）

① 目的

本学大学院の研究の活性化・高度化を図るため、学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を育成することを目的とする。

② 採用資格

- ○ 採用時に博士の学位を取得している者及び人文・社会科学の分野においては、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者
- ○ 採用時の年齢が満 35 歳未満の者

③ 業務内容

本学で行うプロジェクト研究等の研究

④ 採用人数

（名）

	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
歯学研究科	1 名	1 名	2 名	0 名	2 名	1 名

3. 教育研究活動

（1）教育改革への取組（特色・現代・教育Good Practice）

文部科学省では、各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、全国の国公私立大学から大学教育の改善・改革に関する様々な取組について公募し、特色・個性ある優れた取組を選定し、財政支援を行っている。
本学の実績として、2003 年度 1 件、2004 年度 1 件、2007 年度 5 件、2008 年度 3 件、2009 年度 1 件、2012 年度 2 件が選定されている。
さらに、2017 年度には道内 4 大学との共同申請による「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン －多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成－」を申請し選定された。

【選定された取組】

2003 年度：①特色ある大学教育支援プログラム（本学単独申請）
地域・大学連携による医療系基本教育－ボランティア活動による教育を中心に－
2004 年度：①現代的ニーズ取組支援プログラム（本学単独申請）
地域への健康支援と融合・連携した学生教育
2007 年度：①がんプロフェッショナル養成プラン（他大学との共同申請）
北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム
②現代的教育ニーズ取組支援プログラム（他大学との共同申請）
双方向型医療コミュニケーション教育の展開
－多職種参加型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して－
③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（他大学との共同申請）
全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座
④大学院教育支援プログラム（本学単独申請）
臨床心理学専攻－科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育
⑤大学院教育支援プログラム（本学単独申請）
言語聴覚学専攻－言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院－医療技術系大学院の教育モデル－
2008 年度：①戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）
北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材教育
②戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）
口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考
③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（他大学との共同申請）
地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム
2009 年度：①大学教育・学生支援推進プログラム（本学単独申請）
「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援
2012 年度：①がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラム（他大学との共同申請）
北海道がん医療を担う医療人養成プログラム－地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進－
②大学間連携共同教育推進事業（他大学との共同申請）
ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成
2017 年度：①多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（他大学との共同申請）
人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン －多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成－

○2003 年度選定
①特色ある大学教育支援プログラム（本学単独申請）
「特色ある大学教育支援プログラム」とは、各大学が実施している大学教育の改善・改革に関する様々な取組について、全国の国公私立大学から文部科学省が公募し、審査・評価を経て、そのうち特色ある優れたものを選定する制度である。選定されたプログラムは、広く社会に情報提供されるとともに、今後の大学教育の改善モデルとして活用されることになり、本学は、全国 664 件の応募の中から選定された 80 件のひとつに選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2003 年度から 2006 年度までの 4 年間にわたり助成を受けた。

取組名称：地域・大学連携による医療系基本教育－ボランティア活動による教育を中心に－
■大学改革推進等補助金受給の状況 （千円）

2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度	計
15,000	1,348	3,650	5,613	25,611

○2004 年度選定
①現代的教育ニーズ取組支援プログラム（本学単独申請）
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から申請された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育のさらなる活性化が促進されることを目的とするもので、本学は、全国 559 件の応募の中から選定された 86 件のひとつに選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2004 年度から 2006 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。

取組名称：地域への健康支援と融合・連携した学生教育
■大学改革推進等補助金受給の状況 （千円）

2004 年度	2005 年度	2006 年度	計
11,838	3,459	5,371	20,668

○2007 年度選定
①がんプロフェッショナル養成プラン（他大学との共同申請）
「がんプロフェッショナル養成プラン」は、国公私立大学から申請されたプログラムの中から、質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し、財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的として実施されているもので、本学と札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学が、「北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム」の取組名称の下に共同申請し、選定されたものである。
なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2007 年度から 2011 年度までの 5 年間にわたり助成され、補助事業終了時の文部科学省の最終評価結果では「A」の評価を受け、「教育の活性化が大いに促進され、がん専門医療人の要請が大いに推進された」との高い評価を得ている。
また、本事業は 2012 年度からの「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、さらに 2017 年度から「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）』養成プラン」へと継承され、いずれも本学が上述の 4 大学と共同申請したプログラムが選定された（別掲）。

取組名称：北海道の総合力を生かしたプロ養成プログラム

■北海道医療大学の養成コース概要

北海道医療大学では、次のコース（コメディカル養成コース）を設け、がん専門医療人の養成を行う。

・がん専門薬剤師コース（養成受入人数：3 名）

大学院薬学研究科修士課程（医療薬学専攻）において、2008 年 4 月から受入開始した。

・がん専門看護師コース（養成受入人数：3 名）

大学院看護福祉学研究科修士課程（看護学専攻）において、2007 年 4 月から受け入れている。

また、がん専門薬剤師やがん専門看護師等を目指す方を対象に、次のインテンシブコースを設け、様々な研修や学習会等を開催する。

・コメディカルがん薬剤師コース

がん専門薬剤師を目指す薬剤師（社会人及び大学院生）を対象に、講義形式の研修や地域での専門医師、看護師等のインテンシブコースとの共同でチームカンファレンスを開催する。

・コメディカルがん看護師コース

研究会コースでは、ホスピスケア研究会札幌分科会をはじめ、関連研究会と連携し、講義、演習を実施する。事例検討会コースでは、道内各地でがん看護に関わる看護師を対象に事例検討と講義を組み合わせた学習会を開催する。また、専門医師コースと連携したチームカンファレンスを開催する。

■大学改革推進等補助金　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	計
12,206 100,000	21,733 100,000	21,872 100,000	22,216 100,000	21,719 100,000	99,746 500,000

※下段金額＝共同取組大学分を含む補助金申請額

②現代的教育ニーズ取組支援プログラム（他大学との共同申請）

大学等から申請された取組の中から、特に優れたプロジェクト（取組）を選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、これからの時代を担う優れた人材の養成を推進することを目的として実施されているものである。

なお、本取組は、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。

2010 年度からは、各大学の取組となり、本学は、全学教育科目「地域連携」の中で授業を展開している。

取組名称：双方向型医療コミュニケーション教育の展開

-多職種連携型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して-

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
8,799	11,000	11,000	30,799

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（本学単独申請）

キャリアアップのために音楽療法を学びたい医療福祉従事者の方、何らかの理由で就業から離れていたが音楽療法を専門的に学び直したい方、専門的技能向上を目指している音楽療法士の三者を対象とした、音楽療法教育講座（「音楽療法基礎講座」、「音楽療法実践講座」「音楽療法実習講座」）を開設した。

なお、本取組は、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり実施し、受講者はのべ 165 名、修了者は 137 名であった。

取組名称：全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座

■事業委託費　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
4,452	10,537	7,139	22,128

④⑤大学院教育改革支援プログラム（本学単独申請）

「大学院教育改革支援プログラム」は、「新時代の大学院教育」（2005 年 9 月 5 日中央教育審議会答申）、「大学院教育振興政策要綱」（2006 年 3 月 30 日文部科学省）等を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化を目的として実施されているもので、本学は、大学院心理科学研究科臨床心理学専攻および言語聴覚学専攻の両専攻が申請、選定され、文部科学省の大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間にわたり助成を受けた。

取組名称：臨床心理学専攻　-科学者実践モデルに基づく臨床心理学教育

■大学改革推進等補助金支給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
20,530	13,310	8,019	41,859

取組名称：言語聴覚学専攻　-言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院-医療技術系大学院の教育モデル-

■大学改革推進等補助金支給の状況　（千円）

2007 年度	2008 年度	2009 年度	計
17,320	16,170	13,585	47,075

○2008 年度選定

①戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）

本学と札幌医科大学・室蘭工業大学・小樽商科大学・千歳科学技術大学の 5 大学が共同で申請し選定された取組である。

「戦略的大学連携事業」は、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的として、文部科学省が 2008 年度から新規に開始した事業である。2008 年度は、「総合的連携型」59 件、「教育研究高度化型」35 件、計 94 件の申請が全国の国公私立大学からあり、本学は他大学との連携による 2 件の取組が選定された。

取組名称：北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材育成

■取組概要

広大な医療圏を抱える北海道は、医療人の不足と偏在による地域医療崩壊の危機に立たされている。さらに、北海道全体の不況が重なることにより、地域の活力が失われつつある。

このような状況を打開するひとつの方策として本取組では、北海道の地域に密着した、医療系、工学系、情報系、経営系の国・公・私立の 5 大学が連携し、医療ないし保健福祉を中心とした地域活性化のための人材育成目指すものである。この連携により、それぞれの大学教育の特徴を融合した形の新しい教育体制を作り上げ、医療の基礎を有する技術者・経営者、情報・工学及び経営に精通した医療者、また地域ニーズに対応できる高度医療者を養成する。本取組により、地域の今日的課題を発見し、解決する能力を持つ、即戦力となる高度専門職業人が輩出されることが期待されている。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
5,000	6,000	5,830	16,830
73,000	72,640	65,268	210,908

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

②戦略的大学連携支援事業（他大学との共同申請）

本学と福岡歯科大学・九州歯科大学・岩手医科大学・昭和大学・神奈川歯科大学・鶴見大学・福岡大学の 8 大学が共同で申請し、選定された取組である。

取組名称：口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考

■取組概要

生命科学の急速な進歩、少子高齢化、社会構造の改善等は疾病構造の変化をもたらし、医療に対する国民のニーズが大きく変貌している状況下で、とりわけ超高齢社会では、人の健康に対して口腔が担う役割はこれまでになく大きく、口腔疾患と全身疾患との関連について十分な知識を持ち、口腔ケアを含む口腔疾患の予防・治療ができる医療人の育成が、医学及び歯学の両分野において急務となっている。本取組の最終的な目標は、社会ニーズから乖離しつつある現在の医療や医学・歯学教育体制を再考し、医学・歯学を統合した一体教育を実現することにある。その第一段階として全国規模の医歯学連携により、口腔医学の学問体系を確立し、医学・歯学の一体教育の実施に必要な教育環境の改善を図り、新しい医療人の育成及び教育体制の創設に共同して取り組むものである。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
8,976	10,979	3,797	23,752
77,000	85,000	69,400	231,400

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（他大学との共同申請）

本学と日本赤十字北海道看護大学が共同で申請し、選定された取組である。

「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」は、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006（2006 年 7 月 7 日閣議決定）」等を踏まえ、社会人の「学び直し」のニーズに対応するため、大学等における幅広い教育研究資源を活かした優れた学修プログラムを開発・実施することにより、学び直しに資する良質な教育プログラムの普及を図り、再チャレンジを可能とする柔軟で多様な社会の実現を目指すことを目的として実施されているものである。

取組名称：地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム

■取組概要

近年、臨床現場において、地域住民・当事者が治療における意思決定のため、疾患及び治療の理解を含めた医療情報リテラシーの向上が重要となってきている。

本事業は、地域格差のない医療情報を住民に提供するため、臨床現場で働く薬剤師・看護師が最新の情報を入手・提供できる能力育成を目的とした教育プログラムを提供するものである。対象は、現場に勤務する薬剤師・看護師とし、特に大都市圏から離れた遠隔地の医療機関の従事者に焦点を当てている。この教育プログラムでは、共通基礎プログラムにより、質の高い文献の入手方法、そしてそれらの情報をもとに患者教育の実践教育を行うことができる能力を培い、基礎共通プログラム修了者は専門分野を選択し、選択専門分野別の学習を行うものとなっている。また、効果的な授業のため、講義形式、ワークショップ、e-learning、ウェブカンファレンス形式等、多様な授業方式を採用し行われ、プログラム修了者には、修了証明書が与えられる。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2008 年度	2009 年度	2010 年度	計
10,856	11,935	12,893	35,684
15,100	14,991	14,991	45,082

※下段数字＝共同取組大学分を含む補助金申請額

○2009 年度選定

①大学教育・学生支援推進事業　学生支援推進プログラム（本学単独申請）

「大学教育・学生支援推進事業　学生支援推進プログラム」では、"就職支援の強化など総合的な学生支援"をテーマとして、その趣旨・目的に沿った達成目標を明確にし、確実な計画の下に、組織的に大学等の学士力の確保・教育力の向上を図ろうとするもので、我が国の高等教育の質保証の強化に資する取組を募集の対象として公募され、大学の取組 296 件、短期大学の取組 84 件、高等専門学校の取組 1 件、複数学校の取組 19 件の取組が採択された中のひとつに選定されたものである。

■取組名称：「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援

■取組概要

入学する学生の多様化により、学習意欲や主体的な学びの姿勢・態度が希薄化していることから、入学早期からの支援、対策が必要となっている。

本学では、学生力を生かした大学運営の改善や教育力の向上を目的として、2008 年度から「学生キャンパス副学長（Student Campus President：以下「SCP」という。）」制度(4 学部 4 名の学生を委嘱)を導入し、様々な取組を開始している。本取組は、SCP からの助言や提言、また、SCP が在学生や卒業生を対象に実施する調査結果に基づくニーズを今後のキャリア形成支援・就職支援に反映させるもので、従来の大学からの一方的な指導から双方向型の支援体制を構築するものである。本取組により、社会に求められる豊かな人間性の涵養やコミュニケーション能力、課題探求能力等、学士力の向上を図るとともに、学生の自主的な活動の充実に向けた支援が可能となることが期待される。

■実施内容

1）キャリアデザイン講座

「自ら将来を切り開いていく力を身につける」ことを目的とし、専門職以外の多様な職業に就く学生が多い臨床福祉学科第 3 学年(在籍 62 名)、臨床心理学科第 2 学年(在籍 70 名)について、3 日間集中の課外講座として実施した。企業や教育関係の最前線で活躍されているキャリアデザイン専門の外部講師（研修トレーナー）を招聘し、20 名 1 クラスの少人数でのグループワークを中心に職業観の涵養・社会人基礎力の養成・職業適性検査による自己分析等を行った。

2）就職支援システム

新たなデータベースを導入した。2011 年度以降は、さらに学生の活用度を高めるために、検索性等の内容をカスタマイズしていく。

3）就職データベースを含む就職 Web サイトのコンテンツ等

学生に活用され役立つものとするために、SCP から要望についてヒアリングを行い、専門の Web ページを作成した。

4）受講者アンケート

キャリアデザイン講座において実施し、その効果を測定した。

5）2011 年度活動報告

本プログラムの 2011 年度活動内容については、就職委員会・学科会議において報告を行った。また、本学ホームページ上で取組の概要についてのページを作成した。

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2009 年度	2010 年度	2011 年度	計
11,000	9,500	9,177	29,677

○2012 年度選定

①がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（他大学との共同申請）

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」は、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための拠点を構築することを目的として、文部科学省が大学改革推進等補助金（大学改革推進経費）対象事業として実施するもので、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上の推進を図るものである。

本学は、本事業の前身である旧「がんプロフェッショナル養成プラン」から引き続き、札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学との共同により「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム　-地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進-」を申請し選定された。

■取組名称：北海道がん医療を担う医療人養成プログラム　―地域がん医療の充実と最先端がん研究の推進―

北海道医療大学の教育コース概要

1）がん看護コース（緩和ケアリソースナース養成プログラム）

①教育の目的：がん患者・家族が住み慣れた地域で安心して療養できるよう、ケアとキュアを統合した緩和ケアサービスが提供できるとともに、緩和ケアサービスを効果的にマネジメントし、地域において緩和ケアに携わる保健医療職などを支援するリソースナースとして活躍できる人材の養成。

②教育内容の特色：

・ケアとキュアを統合した高度な看護実践力養成のために、臨床判断力と実践力を強化したカリキュラムの展開

・地域における緩和ケアサービスのマネジメント力、およびリソースナースとしての能力開発・実践力養成のため多職種参加のもとでの課題設定による演習や実習

・学外のがん看護に携わる看護師も参加した事例検討と講義を組み合わせた学習会の開催

③養成（受入）予定人数：3名

2）地域がん医療薬剤師コース（インテンシブコース）

①教育の目的：先進的がん化学療法や患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできるリーダー的薬剤師の養成。

②教育内容の特色：

・北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん医療におけるレジメン管理など具体的事例、課題に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開。

・がんターミナルケアなど、今後増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、これまで対象となることが少なかった保険薬局薬剤師を対象とした地域ニーズに即したプログラムを展開。

③養成（受入）予定人数：各回30名

■大学改革推進等補助金受給の状況　（千円）

2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	計
16, 955	16, 955	15, 938	14, 073	12, 786	76, 707
135, 000	135, 000	126, 900	112, 051	101, 798	610, 749

【参考】下段数字は、共同取組大学分を含む補助金申請額である。

②大学間連携共同教育推進事業

■取組名称 :IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

■取組概要

本取組は超高齢社会の到来に対応できる全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成するために、連携体制をとってきた3大学と地域医療教育を担当する周辺歯科医師会が協働するものである。IT を活用した歯学教育プログラムを構築して、①臨床推論能力,②コミュニケーション能力,③自己評価能力を養成するものである。これらの臨床能力を総合的に身につけるために、まず基礎的な力を e-learning で身につけ、臨床推論能力、コミュニケーション能力を仮想患者教育システム(VP)で養成し、さらに臨床における自己評価能力を電子ポートフォリオで養うのが特徴である。ITを活用するので、いつでも多施設で教育とその結果を共有することができ、ステークホルダーである歯科医師会も学生の成績と臨床能力(コンピテンシー)を比較検討し、歯学教育に対して具体的な提言をすることができることが特徴である。

■連携大学

北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学(代表校)

■連携機関

北海道歯科医師会、札幌歯科医師会、岩手県歯科医師会、盛岡市歯科医師会、東京都大田区蒲田歯科医師会、
東京都大田区大森歯科医師会、東京都目黒区歯科医師会、東京都荏原歯科医師会、東京都品川歯科医師会

■事業期間

2012 年度から 2016 年度(5年間)

■大学改革推進等補助金受給の状況 (千円)

2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	計
2,662	1,528	1,511	2,311	1,439	9,451
37,255	15,901	15,901	16,068	11,755	96,880

【参考】下段数字＝共同取組大学分を含む補助額

〇2017 年度選定

①多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(他大学との共同申請)

「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プラン」は、複数の大学間の連携による「がん専門医療人材養成拠点」において、それぞれの大学の特色を活かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」を養成することで、わが国におけるがん医療の一層の推進を図ることを目的としている。

本学は、本事業の前身である「がんプロフェッショナル養成プラン」(第 1 期)、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」(第 2 期)から引き続き、今期(第 3 期)も札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学の 4 大学との共同により「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン」を申請し選定された。

■取組名称:人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン ―多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材の養成―

■取組概要

北海道医療大学の教育コースの概要

1）がん看護コース（緩和ケアアウトリーチナース養成プログラム）

①教育の目的：

あらゆるライフステージにあるがんサバイバーとその家族が、質の高い在宅医療を受けられるよう、生活の場に積極的に入り込んで生活ニーズに即した緩和ケアを提供するとともに、地域包括ケアを担う保健医療職に対し、緩和ケアの実践力の向上を目指したアウトリーチ活動を行う人材の養成。

②教育内容の特色：

・在宅看護、老年看護の知識とスキルを有したがん看護実践力を養成するため、本研究科のリソースを活用して、在宅看護、老年看護および福祉・介護領域の大学院生とともに学習する教育プログラム。
・本学の地域包括ケアセンターを活用し、その地域に積極的に入り込むことによって地域特性や住民の健康ニーズなど包括的な視野で緩和ケアシステムを構築するための教育プログラム。
・本養成プログラムの一環として、北海道専門看護師の会との協働のがん診療拠点病院での家族のサポートグループの実施、インターネットサバイバーピアサポートの構築などに取り組むことによる、がん専門看護師のアウトリーチ活動のモデル構築。

③養成（受入）予定人数：３名（各年度）

2）地域がん医療連携の推進を担う薬剤師養成コース（インテンシブコース）

①教育の目的：

地域におけるがん医療において、先進的がん薬物療法とライフステージに応じた患者ケアに関わる高度な専門知識と臨床能力を持ち、がんチーム医療に貢献し、他の薬剤師に対し指導的役割を担うとともに、地域におけるがん医療の推進について、他の医療スタッフと協働して実践することのできる専門性の高い薬剤師の養成。

②教育内容の特色：

・北海道内のがん拠点病院等の薬剤師や職能団体等との連携により、がん先進医療における具体的な事例、課題あるいはレジメン管理に関するセミナー、ワークショップにより、広く情報の共有を図る実践的なプログラムの展開。
・今後ますます増大する地域の在宅ケアにかかわるニーズに対応するため、がんターミナルケア、種々の合併症に関するケア、認知症などの精神科領域に関する総合的ケアなど、地域ニーズに即した総合的なプログラムの展開。
・在宅におけるがん治療の一般化に伴い、がん患者とその家族が安心して治療に取り組むことのできるよう、がん薬物療法の副作用や抗がん剤のなどの薬剤に関する正しい知識を学ぶことができるプログラムの展開。
・がん薬物療法における薬剤師の役割を病院および在宅の両面から互いに学ぶことのできるプログラムの展開。

③養成（受入）予定人数：１５０名（各年度）

■研究拠点形成費等補助金受給の状況 (千円)

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	計
16, 523	12, 881	10, 937	8, 587	4, 293	55, 165
131, 900	101, 818	86, 869	67, 878	33, 939	437, 353

【参考】下段数字は、共同取組大学分を含む補助金申請額である。
2019 年度以降の金額は見込み額である。

（2）科学研究費・各種外部資金

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学まであらゆる分野における優れた学術研究をさらに発展させることを目的として、文部科学省及び日本学術振興会から交付される全額補助である。研究者にとっては研究活動の充実と継続のため、また、若手研究者の育成・奨励の観点からも貴重な外部資金であり、その獲得は本学全体の研究活動のレベルを高めるために極めて重要である。なお、執行に関しては学内で説明会、内部監査等を行い、透明性と健全性の確保に努めている。

【科学研究費】

＜2018年度交付決定状況（件数） 新規・継続＞

学部等＼研究種目		特別推進研究	新学術領域研究	基盤研究S	基盤研究A		基盤研究B			基盤研究C			若手研究	挑戦的萌芽研究	研究活動スタート支援	特別研究員奨励費	国際共同研究加速基金	合　計
					一般	海外学術調査	一般	海外学術調査	特設分野研究	一般	海外学術調査	特設分野研究						
薬　学　部	新規申請		1							15			6	2	1			25
	新規採択									1			2					3
	継続									13			1					14
	交付額									18,070			6,630					24,700
歯　学　部	新規申請		1				5			47			15	4	8		1	81
	新規採択		1				2			7			5		1			16
	継続									19			4		1			24
	交付額		4,940				9,490			39,000			14,300		2,600			70,330
看護福祉学部	新規申請						1			10		1	4	2	2			20
	新規採択						1			1			1					3
	継続									5			2					7
	交付額						6,240			6,942			3,250					16,432
心理科学部	新規申請									8			2		1	1		12
	新規採択									4			1			1		6
	継続									2								2
	交付額									9,360			1,300			1,000		11,660
リハビリテーション科学部	新規申請									4			3	1				8
	新規採択									1			2					3
	継続						1			5			3		1			10
	交付額						3,120			5,460			6,760		1,300			16,640
医療技術学部	新規申請									1								1
	新規採択																	0
	継続									1								1
	交付額									1,170								1,170
健康科学研究所	新規申請									1			1					2
	新規採択												1					1
	継続																	0
	交付額												1,820					1,820
予防医療科学センター	新規申請												1					1
	新規採択												1					1
	継続									2								2
	交付額									2,860			2,600					5,460
がん予防研究所	新規申請						1							1				2
	新規採択																	0
	継続									1								1
	交付額									1,820								1,820
合　　計	新規申請	0	2	0	0	0	7	0	0	86	0	1	32	10	12	1	1	152
	新規採択	0	1	0	0	0	3	0	0	14	0	0	13	0	1	1	0	33
	継続	0	0	0	0	0	1	0	0	48	0	0	10	0	2	0	0	61
	交付額	0	4,940	0	0	0	18,850	0	0	84,682	0	0	36,660	0	3,900	1,000	0	150,032

*2019年3月31日基準

＊間接経費含む

＜推移＞

表1（応募・採択状況）

	新規				交付対象課題数			
	応募数	採択課題数	採択率本学	採択率全国	新規	継続	うち、転入課題	新規+継続
2017年度	144	23	16.0	―	23	64	4	87
2018年度	139	32	23.0	―	32	58	2	90
2019年度	156	39	25.0	―	39	58	2	97

＊各年度5月1日現在の集計による数値

表2（直接経費）

金額単位：千円

	新規		継続		新規＋継続		転入（+）		交付（合計）	
	交付請求数	交付額*	交付請求数	交付額	交付請求額（合計）	交付額（合計）	件数	受入額	件数	交付額
2017年度	24	27,200	62	69,500	86	96,700	4	4,800	90	101,500
2018年度	32	52,180	58	49,140	90	101,320	2	1,820	92	103,140
2019年度	39	47,138	58	59,052	97	106,190	1	1,430	98	107,620

＊各年度5月1日現在の集計による数値で、額は交付請求による見込額。

表3（間接経費）

	金額	間接経費措置種目
2017年度	29,820	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究、特別研究員奨励費の一部
2018年度	44,202	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究、特別研究員奨励費の一部
2019年度	45,510	基盤研究（B・C）、挑戦的萌芽研究、若手研究（B）、新学術領域研究

＊各年度5月1日現在の集計による数値で、額は交付請求による額。

図1

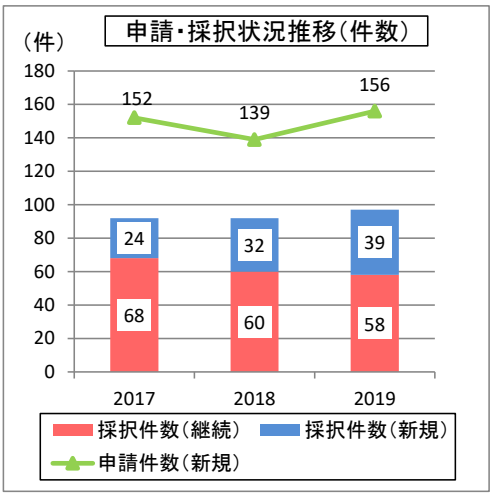
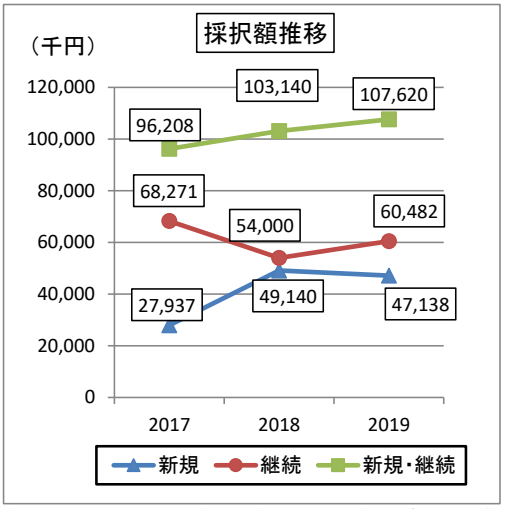


図2



＊表1及び図1の申請数は前年11月の申請数。新規採択数、継続内定数、採択率はすべて4月の交付内定時のもの（交付内定時の転入出調整を含む）
＊表2、表3について、転入・転出・辞退等を調整済み。ただし、他研究機関への分担金の移転分は反映していない。

【科学研究費・詳細】

種目	部局	研究代表者		研究課題名
基盤研究(B)	歯	教授	斎藤　隆史	象牙質再石灰化・再生技術が拓く次世代齲蝕予防・治療法確立への展開研究
	看	教授	山田　律子	認知症高齢者の摂食嚥下障害に対する原因疾患別予防プログラムの多職種共同開発
	歯	教授	志茂　剛	癌骨破壊病変のHedgehogシグナルを起点とした癌代謝・癌免疫制御機構の解明
	リ	准教授	榊原　健一	生成メカニズムに基づく声質の音声学的分類
基盤研究(C)	リ	教授	近藤　里美	Communicative Musicalityを活用した重度認知症ケアの創出
	心	講師	真島　理恵	信頼関係形成方略の社会差についての理論的・実証的研究
	心	教授	冨家　直明	認知行動的栄養教育プログラムの開発とその評価
	心	助教	西郷　達雄	下痢型IBSを対象とした暴露療法：消化管症状に対する不安条件付けの消去
	心	准教授	百々　尚美	社交不安障害患者のための視線を標的としたエクスポージャープログラムの開発
	歯	講師	大村　一将	直接経口抗凝固薬療法時における出血および血栓リスクの指標作成に関する研究
	薬	助教	大島　伸宏	Theranosticsの精度と内照射療法時の安全性を向上する放射性薬剤の開発
	歯	教授	伊藤　修一	多機能性を有する修復材料の開発
	歯	教授	入江　一元	フェイトマッピングによる象牙芽細胞分化因子の解明と象牙質再生療法への応用
	歯	教授	照光　真	三叉神経神経障害性疼痛の中枢性感作−infra−slowオシレーションの変調−
	歯	講師	倉重　圭史	エナメル質石灰化転写制御因子の同定
	歯	講師	六車　武史	高密着性、高柔軟性を有する高水素含有DLC成膜へのプラズマを用いた抗菌機能の付与
	看	講師	神田　直樹	医療過疎地域に隣接する地方中核病院の救急看護師に対する広域連携支援モデルの構築
	薬	講師	木村　治	頭髪成分を用いた高齢者の長期栄養状態の評価について
	歯	准教授	松岡　紘史	舌痛症の症状満足度に焦点を当てた認知行動療法プログラムの開発
	薬	准教授	佐藤　浩輔	RNA高次構造を検出可能な超効率的RNA検出プローブの開発
	薬	准教授	堀内　正隆	人工マルチドメイン酵素固定化シートを用いた低コストなアゾ染料分解法の研究
	が	教授	藏満　保宏	癌の悪性化におけるGLO1の役割の解明
	薬	准教授	波多江　典之	G蛋白質共役型受容体の活性調節機能を有する多環縮環型フラン環化合物の創生
	薬	准教授	北浦　廣剛	細胞周期制御因子CDK2を標的とした放射性プローブの開発
	歯	教授	石井　久淑	咀嚼時の副交感性脳血流増加による大脳皮質機能維持と脳虚血疾患の病態改善機構の解明
	歯	准教授	根津　顕弘	生体イメージングと網羅的遺伝子解析による唾液腺の代償性肥大機序と分子基盤の解明
	歯	教授	安彦　善裕	口腔内病原菌内毒素による海馬のエピジェネティック修飾の網羅的検索
	歯	講師	松田　康裕	ZnO/CuOナノコンポジットを基盤とした新規多機能材料の開発
	歯	教授	會田　英紀	光機能化テクノロジーの広範囲顎骨支持型顎顔面補綴装置への応用に関する基礎的研究
	歯	教授	永易　裕樹	噛みタバコによる口腔ガンの予防に向けた発がん機構メカニズムの解明
	歯	教授	齊藤　正人	エナメル質再石灰化を誘導するアメロジェニン活性領域の同定
	歯	教授	長澤　敏行	歯周炎によるAgonistic autoantibodyがもたらす高血圧症の解明
	歯	助教	藤田　真理	口腔細菌によるベーチェット病の発症要因の探索ーメタゲノム解析を用いてー
	看	准教授	木浪　智佳子	重症心身障害児者と援助者間に相互作用をもたらす食事援助プログラムの開発
	看	教授	塚本　容子	異分野連携による高度専門職業人のルーブリックを用いたアウトカムアセスメント開発
	リ	准教授	森元　良太	ランダム化比較実験とベイジアンネットワークによる因果推論の論理と哲学に関する研究
	リ	教授	吉田　晋	随意運動と関連した人工的な刺激は皮質間の機能連絡に影響を与えるか
	リ	講師	前田　秀彦	直接骨導音を利用した食道音声支援用携帯型拡声器の開発
	薬	講師	鈴木　喜一	キラルな分子の光電子角度分布における分子整列の影響の理論的解明
	薬	講師	寺崎　将	フコキサンチンによるがん予防効果を判定する唾液中の予防マーカー代謝物解析
	薬	教授	岡崎　克則	地方病性牛白血病制御のための開発研究～予後診断法の改良とワクチン開発～
	薬	准教授	高上馬　希重	薬用植物カンゾウにおけるグリチルリチン酸の高生産を目的とした分子生物学的研究
	薬	教授	平野　剛	mTORシグナルによる胎盤栄養輸送とエピジェネティック制御機構の解明
	薬	准教授	中川　勉	ChREBPによるGLUT2の発現制御を介した血糖調節機構の解明
	歯	准教授	高橋　伸彦	糖代謝異常の臓器特異的病態マーカーとなるエクソソーム内在長鎖非コードRNAの探索
	薬	教授	泉　剛	うつ病における海馬と扁桃体の統合的理解を目指して
	リ	教授	下村　敦司	オーディトリーニューロパチーに対する再生治療の実現を指向した聴神経分化機構の解明
	予	教授	北市　伸義	ユーラシア大陸内陸部多民族におけるベーチェット病関連遺伝子の解析

	歯	教授	谷村　明彦	唾液腺Ca2+応答の低侵襲的長期間イメージング技術の確立と機能・再生研究
	歯	教授	中山　英二	唾液腺内視鏡下唾石溶解療法の開発に関する基礎的研究−唾石溶解剤の解析
	歯	准教授	豊下　祥史	咀嚼による記憶機能維持のメカニズム解明についての研究
	歯	助教	佐々木 みづほ	オーラルディアドコキネシスを利用した簡便に行えるサルコペニア進行度評価法の開発
	歯	教授	疋田　一洋	歯冠補綴物製作におけるデジタルプロセスの確立
	歯	准教授	細矢　明宏	転写因子Gli1陽性歯髄幹細胞の象牙質再生に対する機能解析
	歯	准教授	飯嶋　雅弘	バイオガラス/キトサン/銀ナノ粒子の創成とバイオアクティブな材料表面改質への応用
	歯	講師	森　真理	Molecular mimicryに基づくベーチェット病の診断と予防戦略
	看	教授	竹生　礼子	地域特性に合わせた在宅がん療養者の住民参加型生活支援システムの活用と評価
	看	准教授	宮地　普子	アルツハイマー型認知症高齢者の「一人歩き」の特徴とその意味の解明
	予	講師	河野　豊	大腸癌のBH3プロファイリングによる抗がん剤耐性機序の解明及び新規治療法の開発
	医	講師	江本　美穂	EPRイメージング法による新規Theranosticsプローブの開発研究
	リ	助教	黒崎　芳子	失語症患者の喚語過程における情動的処理の影響に関する基礎的研究
	リ	教授	本家　寿洋	LAESを使用して高齢障害者が余暇活動を主観的に楽しむプログラムの開発
	看	教授	花渕　馨也	コモロ人移民同郷組合による開発援助と地域社会の変容に関する人類学的研究
	薬	准教授	遠藤　哲也	頭髪中の安定同位体比と微量元素の分析による栄養状態の評価と医療への応用
	心	教授	漆原　宏次	なぜ罰は効果があると錯覚されるのか？関係性学習の観点からの実験的分析
若手研究	心	助教	関口　真有	糖尿病患者に対する問題解決療法プログラムの作成と効果検証
	薬	助教	佐々木 隆浩	ナノ粒子への精密位置制御分子修飾による細胞内サンプルリターン材料の開発
	薬	助教	下山　哲哉	患者の嗜好に配慮した易服用性経口ゲル化液剤の設計
	予	講師	斎藤　晶理	心筋炎におけるナチュラルキラーT細胞の役割の解明
	歯	助教	山田　梓	間葉系幹細胞の骨芽細胞分化に関与するmicroRNAの機能の解明
	歯	助手	山口　摂崇	高齢就労者における職業性ストレスが口腔機能に与える影響に関する研究
	歯	助教	清水　伸太郎	GPR141の機能と歯周病への遺伝的リスクの解析
	健	助教	高井　理衣	DNAメチル化を介したプロポリスの歯周病予防効果
	歯	助教	建部　廣明	ポリコーム群タンパク質Bmi1による骨芽細胞分化促進メカニズムの解明と歯槽骨再生
	歯	助教	吉田　光希	細胞シート工学にエピジェネティクスを応用した口腔外歯周組織再生ユニットの開発
	歯	助教	竹田　洋輔	口腔リハビリテーションによる行動障害に対する補償機構の分子生物学的解明
	歯	助教	植原　治	歯周病原細菌由来内毒素による自己免疫性ぶどう膜炎発症メカニズムの解明
	看	助教	吉岡　真由	認知症原因疾患をふまえた認知症高齢者の自発摂食評価表の信頼性・妥当性の検証
	リ	助教	大内　みふか	脳血管障害発症後尿失禁を有する男性に対する骨盤底筋トレーニングの有効性の検討
	リ	講師	井上　恒志郎	ストレス脆弱動物におけるストレスの少ない運動条件とその神経基盤の解明
	歯	講師	佐藤　惇	エピジェネティクス修飾を応用した3次元的歯胚形成能の検討
	歯	助手	村田　佳織	歯の発生における上皮間葉相互作用でのCa2+応答の役割とエナメル芽細胞の分化
	リ	助教	児玉　壮志	抑うつのメンタルヘルスリテラシーと援助要請に関する構造方程式モデリングによる検討
若手研究(B)	リ	助教	柳田　早織	痙攣性発声障害における評価アルゴリズムの開発および治療効果の判定に関する検討
	看	助教	松本　望	高齢者介護施設における効果的な虐待予防策の解明
	看	講師	櫻井　潤	無保険の状態にあるワーキングプアの保険加入促進に向けた医療保障政策の研究
	歯	助教	唐　佳	Dentin regeneration by dental pulp stem cells using nephronectin
	薬	講師	阿部　匠	エージング金属錯体の新規反応性開拓研究
	リ	准教授	宮崎　充功	血中分泌型microRNAによる癌性カケキシアの発症と細胞間コミュニケーション
新学術領域研究	歯	教授	谷村　明彦	蛍光リガンド・受容体一体型センサーによる細胞間コミュニケーションの解析
研究スタート支援	リ	助教	鈴木　伸弥	高齢者の姿勢調節能力改善に向けた神経機能促進法の開発
	歯	助教	河口　馨太朗	バイオアクティブガラスを用いた 矯正用ステンレススチール表面の改質
	歯	助教	原田　文也	歯周病原細菌による腎臓への網羅的エピジェネティクス解析−基礎疾患の予防に向けて−

【特別研究員奨励費】

	日本学術振興会 特別研究員新規応募				日本学術振興会 特別研究員新規採用				特別研究員 奨励費申請		特別研究員 奨励費採択		採択金額 (千円)	備考
	PD	DC1	DC2	海外	PD	DC1	DC2	海外	新規	継続	新規	継続		
2017年度	0	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	2	2,590	*間接経費 DCなし,PD390千円
2018年度	1	2	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1,000	*間接経費 DCなし
2019年度	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	−	*間接経費 DCなし

2019年度の採択金額は未確定

【各種外部資金】

外部資金の導入は、本学の学術研究の推進や社会への研究成果の還元の意味からも重要な課題である。
各種の外部資金・学外補助金・民間助成等の公募の学内周知を励行し、申請数の増大に努めている。

＜学外研究資金＞　（千円）

団体名	種類	学部	2017年度			2018年度		
			申請	採択	金額	申請	採択	金額
日本私立学校振興・共済事業団	学術研究振興資金	薬	−	−	−	−	−	−
		歯	−	−	−	1	−	0
	学術研究振興資金(若手)	薬	−	−	−	−	−	−
合計			0	0	0	1	0	0

＜学外補助金･助成金＞

（千円）

団体名	種類	学部	2017年度			2018年度		
			申請	採択	金額	申請	採択	金額
国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)	医療機器開発推進研究事業 （分担者）	看	2	2	1,910	2	2	980
	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	医	1	1	700	1	1	600
北海道科学技術振興総合センター(ノーステック財団)	事業化支援補助金	歯	1	0	0	1	0	0
	スタートアップ研究補助金	薬	0	0	0	1	0	0
		歯	1	0	0	0	0	0
	ノースタレント補助金	薬	1	0	0	4	0	0
		歯	1	0	0	0	0	0
		リ	1	0	0	1	0	0
	札幌タレント補助金	薬	0	0	0	1	0	0
		歯	0	0	0	1	0	0
		リ	1	1	400	1	0	0
国立研究開発法人 科学技術振興機構	研究成果展開事業	薬	－	－	－	1	1	5,200
国立研究開発法人 農業･食品産業技術総合研究機構	革新的技術開発･緊急展開事業 （分担者）	薬	1	1	5,000	1	1	4,000
国立研究開発法人　新エネルギー･産業技術総合開発機構	「植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発」事業（分担者）	薬	1	1	4,325	1	1	4,316
厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患等克服研究事業 （分担者）	歯	1	1	500	1	1	500
		リ	1	1	130	1	1	0
合計			13	8	12,965	18	8	15,596

＜民間助成＞

民間助成	学部	2017年度			2018年度		
		申請	採択	金額	申請	採択	金額
公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 公益財団法人伊藤医薬学術交流財団 一般財団法人北海道開発協会 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 一橋大学経済研究所 他 （2018年度申請実績）	薬	18	3	1,050	24	1	50
	歯	9	5	3,650	9	3	390
	看	5	4	1,843	6	3	100
	心	1	1	200	0	0	0
	リ	4	3	2,900	2	1	750
	医	－	－	－	1	0	0
	予防セ	5	0	0	1	0	0
合計		42	16	9,643	43	8	1,290

＜共同研究･受託研究･治験研究･奨学寄附金＞

種別	学部	2017年度		2018年度	
		実績	金額	実績	金額
共同研究費（入金実績）	薬	2	1,300	2	1,300
	歯	2	4,073	7	7,904
	医	4	8,586	2	7,560
	予	4	8,586	2	5,400
受託研究費（入金実績）	薬	1	750	0	0
	歯	1	4,040	2	1,000
	看	1	4,359	1	500
	予	0	0	2	500
治験研究	予	2	162	5	173
奨学寄附金（研究）	薬	3	1,540	5	14,750
	歯	15	8,291	15	8,640
	予	7	2,409	4	1,600
合計		42	44,096	47	49,327

（3）科研費説明会・研究者倫理

・科研費研修会

公的研究費を受給して研究活動を行うにあたり、コンプライアンスを遵守し適切に経費を執行・管理することが求められるため、研究者および事務職員を対象とする科研費説明会・研修会を定期的に開催している。2018年度は7月31日に当別キャンパスで、8月1日に札幌あいの里キャンパスで科研費研修会を開催した。

・研究者倫理

2014年2月の文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」改正をふまえ、本学コンプライアンス委員会において「公的研究費等の不正使用等に関する防止計画」の見直しを行い、コンプライアンス教育の強化と徹底等を図ることとなった。2016年度からは、全ての研究者と科研費に携わる職員を対象に、研究倫理教育として日本学術振興会の「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一」をe-learningにより実施した。また、コンプライアンス教育についても同様に実施している。

(4)教員評価

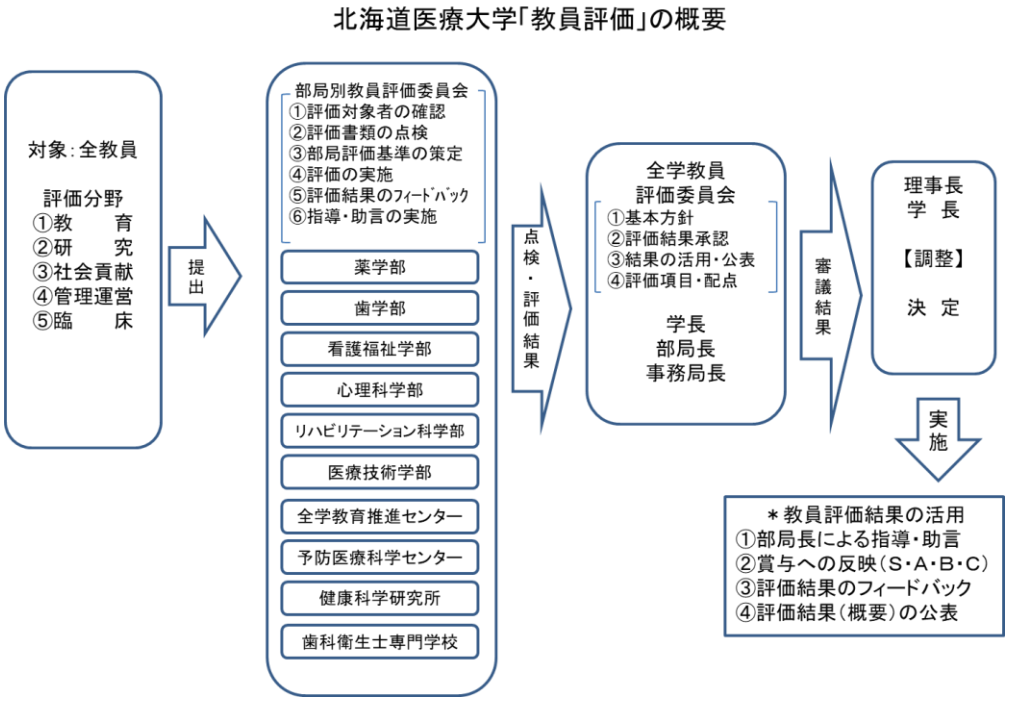
教員評価は、大学、専門学校の専任教育職員の諸活動を点検、評価し、その水準を向上させるために 2007 年度より実施している。評価分野は、教育、研究、社会貢献、管理運営及び臨床の 5 分野で 9 つの部局単位で実施している。評価結果は、各部局長から各教員へフィードバックし、指導・助言・賞与への反映等に活用している。

2018 年度教員評価結果

[1] 評価対象者:2017 年 4 月 1 日から引き続き在籍する専任の教育職員 288 名
※2017 年度に海外及び国内研究員として派遣された者を除く
※2017 年度の退職者(特任教員を含む)を除く

[2] 評価対象年度:2017 年度(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

[3] 教員評価の概要:以下のとおり



[4] 教員評価結果一覧

評価/職位	教授	准教授	講師	助教	専任教員	総数
S:極めて優れている	0	2	0	1	0	3
A:優れている	0	2	7	2	0	11
B:標準である	79	55	64	72	4	274
C:努力を要する	0	0	0	0	0	0
総数	79	59	71	75	4	288

[5] 教員評価結果の活用

① 賞与への反映

評価区分	12 月賞与への反映内容
S:極めて優れている	勤勉手当 0.2 月分加算する
A:優れている	勤勉手当 0.1 月分加算する
B:標準である	所定の支給率
C:努力を要する	勤勉手当 0.1 月分減じる

② 評価結果のフィードバック
各部局長から各教員へ評価結果をフィードバックする。

③ 指導及び助言
各部局長は、C評価の教員へ指導・助言を行う。

[6] 教員評価結果の公表

① 教員評価結果については、学外公開用ホームページで公表する。

② A評価以上の者は、氏名を公表する。